

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)

——丈六寺開山・洞雲寺二世金岡用兼の代語抄——

龍 谷 孝 道

はじめに

本論は、室町後期から戦国初期に曹洞宗僧侶として活躍した金岡用兼(一四三八―一五一五?)、以下、用兼)の提唱記録である『慈雲開山金岡和尚代語』(以下、『金岡代抄』)を翻刻し掲載するものである。

室町期以降の曹洞宗では、特に峨山韶碩(一二七六一―三六六)派下の門流において、学人接化の手法として代語を用いた接化が主流となっていた。代語は、上堂にかわって多く行われていた朝参の行法や、祖録の講述の場において、学人各々の境界を点検しまた自らの見解を提示するために用いられた。

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

そのような接化の記録は、従来の伝統的な語録にかわって代語集・代語抄・語録抄などという形式によって書き留められ、江戸期初頭に到るまで多くの典籍が作成・書写され現代にまで伝えられている^①。

本論で翻刻・掲載する『金岡代抄』も、まさしく代語によって行われた用兼の提唱記録であり、自身による解説(抄)も合わせて記録されている。『金岡代抄』は、用兼を開山とする丈六寺(徳島県徳島市)に所蔵されるもので、管見の限り、異本の存在は確認できていない。

以下、提唱者である用兼の略歴と本書の書誌を確認し、翻刻文を提示する。

金岡用兼の略歴

用兼の伝記史料に中世期成立のものは現存せず、現在確認できるものは全て近世期成立のものとなる。²⁾ よって、事績によっては信憑性に問題の存する場合もあるが、ひとまず現在残されている伝記史料を参照して、用兼の行状における基本的な事項を示しておく。

用兼は、永享一〇年(一四三八) 正月、讃岐国那珂郡(現在の香川県丸亀市・善通寺市・坂出市周辺)に生まれ、一一歳の時に剃髪して真言宗の寺院に入った。その後、転衣して石屋真梁(一三四五―一四二三) 門派に属する龍文寺(山口県周南市)の大庵須益(一四〇六―一四七三)に参じた。須益の遷化後は、法兄にあたる為宗仲心(二五〇五寂)に師事し、その法を嗣いだ。

嗣法後は、長享元年(一四八七)に巖島神社の神主藤原教親の請を受けて洞雲寺を開創し(仲心を勧請開山とした)、さらに阿波国の守護細川成之(一四三四―一五一一)に請われて丈六寺の開山となった。

用兼の功績として特筆すべきものには、師である仲心と

共に、兵火によって伽藍荒廃の惨状にあった永平寺を勧募復興させた事や、晩年に『正法眼蔵』の謄写を行った事などが挙げられる。総持寺五院門流における石屋派下の僧侶として辣腕を振るいながらも、自派に止まらず、曹洞宗全体の興隆を意識しながら積極的に活動していたと言える。

『金岡代抄』の書誌

『金岡代抄』を所蔵する丈六寺は、四国地方を代表する石屋派の拠点寺院であり、同派に関連する典籍が多く所蔵されている。用兼に関する典籍としては、『金岡代抄』に加えて、用兼自筆とされる『丈六開山金岡大禪師法語』(以下、『金岡法語』)が所蔵されている。これら二種の典籍について、『曹洞宗文化財調査目録解題集(4) 中国管区編・四国管区編』(以下、『解題集』)では、次のように解題が為されている。

15 丈六開山金岡大禪師法語 一卷一冊

金岡用兼(一四三八?―一五一五?) 撰 永正一〇年(一五一三) 自筆

前半は仏事・香語・銘・祭文、後半は名字・生死・禅説・火事（下火）等より成る。明応六年（一四九七）前後より永正一〇年（一五一三）前後に亘る用兼自身の道俗への香語がその大半を占めている。

〔『解題集』三五七頁〕

25 慈雲開山金岡用兼和尚代語抄 二卷二冊

金岡用兼（一四三八？～一五一五？）撰 明暦二年（一六五六）写 天林兼策筆

外題「慈雲開山金岡和尚代語」、後題「慈雲開山金岡兼和尚下語」とも。慈雲院は丈六寺の前称。古則及び先師為宗仲心（一七二八叙）設齋語等に「拶語」と「代語」を付し、「代語」の註釈を口語体の仮名混り文で記したものの。書写者天林兼策は一一世。

〔『解題集』三五九頁〕

『解題集』によれば、『金岡法語』は自筆の下炬法語集を主とする性質を有しており、『金岡代抄』は古則の代語・註釈を主とする性質を有している。つまり、前者は在俗向けの法要における語を集成したもの、後者は学人向けの説

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻（上）（龍谷）

示提唱における語を集成したものと見えるのであり、用兼の語録は対象者の性質によって「法語集」と「代語集」という二種の典籍に分類され記録されていたことになる。

これは、代語が主流を為していった中世曹洞宗においてしばしば見られる形態と言える。伝統的には一種の語録の中に上堂語・小参語や秉炬・下炬法語などが収録されていたものが、このように別種の典籍として記録されるようになっていったのである。用兼の二種の典籍は、まさにこのような中世曹洞宗に特徴的な記録方法を採用するものと位置づけられる。

改めて具体的に『金岡代抄』の書誌を確認していきたい。まず、本典籍は乾・坤二巻二冊の書冊形態であり、二冊とも題簽が付されているが、卷乾の題簽は墨が薄れて判読する事が困難であり、卷坤の題簽も微かに判読することが可能な程度である。卷坤の題簽からは、「慈雲開山金岡和尚代語 坤」と読み取ることができる。本論では、この外題をもって典籍名と為した。

卷乾は、本文全四八丁で、匡郭等は付されておらず、朱点・朱書きが存する。卷坤は、本文全三六丁で、卷乾と同

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

様に匡郭等はなく、朱点・朱書きが存する。

また、巻乾・巻坤ともに内題は存せず、末尾の識語中に後題が存するのみである。両巻の識語は、それぞれ次の如くである。

【巻乾 識語】

慈雲開山金岡兼大和尚下語乾

明曆二天正月吉辰求之畢

当寺十一世 天林策叟置焉

〔金岡代抄〕巻乾四八丁表)

【巻坤 識語】

明曆二天正月吉辰求之

当山開山金岡兼大和尚御代坤

当寺十一世 天林策叟置焉

〔金岡代抄〕巻坤三六丁裏)

両巻の識語を比較すると、後題に差異はあるものの、明曆二年(一六五六)正月に、丈六寺一世である天林兼策(二六五九叙)が本書を当寺の常住として置いたことが判明する。なお、『解題集』では兼策を書写者と判断しているが、識語の記述は「求之畢」や「天林策叟置焉」とある

ため、実際に兼策が書写をしたのか、あるいは他者が書写したものを兼策が譲り受けて丈六寺常住としたか判断することはできない。

ただ、識語の字体と本文の字体を比較すると、書体が同様で書き癖もほぼ一致しているため、『解題集』と同じく、書写者を兼策と比定してよいものと考えられる。

次に、用兼の代語と抄がどのように記録されているか確認しておく。次の引用は、巻乾の巻頭に記録される第一説示である。

○ 雲門齋時胡餅一咬云、咬着帝釈鼻孔、帝釈害痛、擗、雲門任麼道意作麼生、代、灯心刺着石人足、嘉州大像忍痛ト叫ハ爰ノ心ヲトムル処テ彼シコエ通ノ大像ガ忍痛ト叫ハ爰ノ心ヲトムル処テ彼シコエ通也、此ノ心ハ山川大地トコエモサタエル者也、呈ニ一処ノ心ニ当ル処デトコエモ当ル也、六根門頭ハドコデモ同コト也、サテ雲門ノ胡餅ヲカミツムル処テ梵天迄デコタエル呈ニ、帝釈モツヨク痛ム也、

〔金岡代抄〕巻乾一丁表、読点筆者)

まず、説示の冒頭には朱書きで○が付されており、本則の区切りとして機能している。「雲門齋時……帝釈害痛」までが、この説示での本則であり、続いて「擲」として「雲門恁麼道意作麼生」という擲語が投げかけられる。そしてさらに、「代」として、用兼の代句である「灯心……痛叫」が付され、代語としての一段がまとめられる。

通常の代語集であれば、一つの説示としてはこの用兼の代句、あるいは学人の取句などが記録されて完結する形となるが、本典籍は「代語抄」の形態を有しているため、続けて用兼自身の解説である「抄」が記録されている。「此ノ句意ワ」として始まる仮名書きの口語体の文が用兼の抄である。

本書では、代語の部分が抄文よりもおよそ一字から二字分下げられており、代語と抄が意識的に区切られるように書写・記録されている。

また、訓点や送り仮名は、これが付されていない箇所の方が多いが、朱書きによって多くの訓点や送り仮名が追補されている。また、本文にはしばしば誤記・誤写を確認することができるが、それらを朱書きによって訂正する箇所

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻（上）（龍谷）

も多く見られる。

この朱書きは書写者と考えられる兼策のものではなく、丈六寺一九世である無外養仙（一七九〇寂、以下養仙）によって付されたものである。その根拠は、巻乾・巻坤の識語部分に添加された朱書きにある。まず、巻乾では、三行にわたる識語の間に、次のような朱書きが加えられている。

明和元年申ノ冬十一月十五日ハ開祖二百五十年忌也、辱孫無外結制安居、末山配下不殘聚會二夜三日行法事、制中講法華全ク説聽終、

（『金岡代抄』巻乾四八丁表、読点筆者）
この朱書きによると、明和元年（一七六四）は開山である用兼の二五〇回忌にあたり、「辱孫無外」が結制安居し、末山配下残らず聚會して『法華経』を講ずるなど、二夜三日にわたって法事が執り行われたことがわかる。

さらに、巻坤の識語部分には、次のような朱書きが残されている。

明暦二年ヨリ明和四亥ノ年迄百十一年也、十九世無外考訂、
（『金岡代抄』巻坤三六丁裏、読点筆者）
この朱書きによれば、明和四年（一七六七）に「十九世

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

無外」によって、本書が考訂されたことが判明する。巻乾・巻坤の識語部分の朱書きを合わせれば、本書は明和元年に結制安居し丈六寺一九世となった無外養仙によって、明和四年までにかけて考訂が行われ、誤りを正し、訓点や送り仮名を補って朱書き・朱点に加えられていったことが明らかとなるのである。尚、巻乾にも巻坤と同様の朱書きが存するが、ここでは「十九世無考訂」となっているため、巻坤の朱書きの方がより正確な情報と言える。

これまでの考察をまとめれば、丈六寺に所蔵される『金岡代抄』の由来は、次の如くなる。まず原本となる用兼の代語抄が存在しており(あるいは代語と抄が別々に存在したか)、それを丈六寺一世天林兼策が書写し、同寺の什物として安置することになった。さらに、それから一〇〇年余りが過ぎた明和元年、用兼の二五〇回忌に際し無外養仙が一九世として晋住し、そこから三年をかけて考訂が為され、明和四年に無事完了した。それ以降、丈六寺の什宝として現在に至るといふことになる。

『金岡代抄』の原本となる典籍が現在発見されていないこと、またそれにもなつて、明暦以前、すなわち室町末

から戦国期における用兼の代語抄の来歴が不明であることは惜しむべきことであるが、本書が用兼開山の丈六寺に所蔵されていることや、そのほかにも当寺には用兼自筆の法語集をはじめ、関連する什宝が存在することなどから考えて、その信憑性は高いと言えるであろう。当然ながら、内容の考察も合わせて判断すべきことであるが、現時点で『金岡代抄』が用兼の代語抄であるとみて問題となる要素は無いと考える。

おわりに

先述の如く、丈六寺には石屋派の僧侶に関連する典籍が数多く所蔵されている。中でも、『山雲海月図』⁴や、真梁の法嗣である竹居正猷(一三八〇―一四六一、一説に一三七八―一四五九)の代語集である『龍文開祖竹居正猷和尚幻寄集』⁵等といった、中世石屋派の思想を明らかにするため、延いては中世曹洞宗の思想を解明するために重要な史料が数多く存する。

用兼の『金岡代抄』や『金岡法語』も、このような史料と同様に、中世曹洞宗僧侶達の思想・活動を明らかにする

ための大きな価値を有する史料と言えるものである。本稿で翻刻を行う『金岡代抄』巻乾、そして次号にて翻刻を掲載する予定である『金岡代抄』巻坤を通じて、さらに今後の研究を進展させていきたい。

(付記) 筆者は平成二十七年一月二日、丈六寺に拝塔し、ご住職豊田靖匡師のご許可を賜り、『金岡代抄』の閲覧・撮影をさせて頂きました。ここに記して、ご住職から賜りましたご厚情に対し厚く御礼申し上げます。

註

(1) 中世曹洞宗の思想や典籍・文献に関する総合的な研究としては、石川力山『禪宗相伝資料の研究』上巻・下巻(法蔵館、二〇〇一年)や、安藤嘉則『中世禪宗文献の研究』(国書刊行会、二〇〇〇年)等が挙げられる。特に「代語」に焦点を当てるならば、安藤氏の研究では、中世曹洞宗における代語文献が網羅的に研究されており、代語という提唱形態の特質についても詳細な検討が為されている。

(2) 用兼の伝記史料としては、洞雲寺(広島県廿日市市)に所蔵される『金岡和尚行状記』や『日本洞上聯灯録』巻八、『続日域洞上諸祖伝』巻三所収のもの等が存する。また、用

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

兼の伝記研究としては、『金岡和尚行状記』と『洞上聯灯録』の関連性を中心としてその成立年代等に考察を加えた石田米孝「金岡和尚行状記」についての考察(『廿日市の文化』第二〇集、一九九二年一月)や、種々の史料を用いて史実的に用兼の実像を考察しようとした藤下憲明「応龍山洞雲寺開山金岡用兼禪師伝」(『廿日市の文化』第二〇集)等が存する。

(3) 曹洞宗文化財調査委員会編、曹洞宗事務庁、一九九七年。

(4) 丈六寺所蔵の『山雲海月図』と、異本である円応寺(佐賀県武雄市)所蔵の『山雲海月図』については、飯塚大展示の諸論稿にて翻刻や内容の検討が行われている(飯塚大展示「丈六寺所蔵『山雲海月図』の翻刻」(『駒澤大学禅研究所年報』第一三号、二〇〇二年二月)、同「円応寺蔵『山雲海月図』について」(『曹洞宗研究員研究紀要』第二九号、一九九八年一月)等)。

(5) 竹居正猷の『幻寄集』については、拙稿「竹居正猷『幻寄集』にみる室町期曹洞宗の公案禅受容」(『印度学仏教学研究』六六巻一号、二〇一七年二月)を参照されたい。

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

『慈雲開山金岡和尚代語』卷乾 翻刻

凡例

- 一、本論は、徳島県徳島市丈六寺に所蔵される『慈雲開山金岡和尚代語』巻乾を底本として翻刻するものである。
- 一、『慈雲開山金岡和尚代語』の説示は、本則の代語とその抄文から構成される。翻刻に際しては代語と抄文の間で改行し区別した。
- 一、原典の体裁を反映するため、抄文部分は代語部分よりも一字上げで示した。
- 一、便宜上、各説示の冒頭に説示番号を付した。
- 一、丁数は、その丁の本文の末尾に(一オ)・(二ウ)等として明記した。
- 一、一部の旧字・異体字を除き、文字の表記は常用漢字を用いた。また、合字は開いて表記した。
- 一、虫損等で判読が困難な箇所に関しては、□で表記した。
- 一、脱字や誤字と思われる箇所に関しては、ルビに(ママ)や(カ)として筆者の私見を示した。
- 一、本文中の「一」は、傷頌の省略箇所を意味する。
- 一、本書には朱点や朱書きが存しており、それを参照しつつ適宜筆者の判断で読点を付した。

本文

- 一、朱書きは主として本文の訂正や訓点のために付されている。全体を通じて朱書きによって原文の文意を損なう箇所はないため、朱書きも翻刻に反映させた。
 - 一、訓点や訂正の朱書きは特に明記せず翻刻しているが、頭注部文などに付されたものは朱書きであることを明記した。
- (一)○雲門齋時胡餅一咬云、咬着帝釈鼻孔、帝釈害痛、擗、雲門恁麼道意作麼生、代、灯心刺着石人足、嘉州大像忍痛叫、
- 此ノ句意ワ心ノ通処也、其故ハ石人ガモエル灯心ニ手ヲ指シ着ケタルハ遙ノ嘉州ノ大像ガ忍痛ト叫ハ爰ノ心ヲトムル処テ彼シコエ通也、此ノ心ハ山川大地トコエモサ々エル者也、呈ニ一処ノ心ニ当ル処デトコエモ当ル也、六根門頭ハドコデモ同ト也、サテ雲門ノ胡餅ヲカミツムル処テ梵天迄デコタエル呈ニ、帝釈モツヨク痛ム也、

- (二)○雲門云、十五日以前汝不問、十五日以後一句謂將來、自代云、日々是好日、擗、雲門底、且置、諸人

作麼生カ道、代、在レ前忽然在後、

此ノ心ハ前ニモ在リ後ニモ在ルゾト云意也、ナセニナレバ此ノ一仏性ハ尽法界□徧滿(一オ)スル者也、呈ニ隱レ家ハナイゾ、真仏ノ正体ワ無形ニシテト□ニモ柱ユルト見バ変滅ナキ呈ニ、昨日モ在リ、今日モ在ル也、呈ニコソ日々是好日デハ在レ、

(3) ○道悟舞^ハン^レ笏^ヲ、秘魔擎^レケ^取ヲ^雪峯^鞆^レ毬^ヲ、拶、兩三宿意作麼生道、代、多福一双竹、一莖兩莖斜、三莖四莖曲、

此ノ句ノ心ハ更ニエ見不斗理也、竹ガ斜ウトモ思ウマジ、又曲ウトモ思ベカラズ、仕合スル理也、向上也、道悟秘魔雪峰三人モ手中ニ有合セタレバ、学人來ルニ取り上ケナゲ合ル也、何ト云理ヲ付ケテワ見マジキ也、

(4) ○石霜一日在丈室中坐、有僧自窓外問、咫尺間為什麼不見師顏、師云、徧界曾不藏、拶、石霜意作麼生道、代、夜行莫踣白、不水則是石(一ウ)、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

此ノ句ノ心口ハ足本ヲ能ク看ヨ、爪ケルナト云心也、其ノ故ワ此大人ノ相ハ尽天尽地ニ拄テ溝ニ滿チ岳ニ塞ル者デ在呈ニ、足本ヲ能ク看爪ケルナト云也、余リ近ウ此ノ僧ワ凡見ナル呈ニ丈室中斗ノ主ト心得テ窓外デハ見エヌ也、其コヲ徧界ニ在ルゾト指シテ教ル也、

(5) ○古徳云、天下ノ仏法如シ^ニ隻船^ヲ、拶、仏法ハ且置^ク、誰カ是^レ犯楫^人、代、坐斷乾坤無第二人、

此ノ句ワ此ノ主人ヲ指テ響也、此ノ主人ヲダニ會得シツレバ東シヲ西エ成ウトモ天ヲ地ト成ウトモ吾ガ儼也、船ハ楫取リタニヨケレバドツチエヤルモ吾ガ儼也、又頭^ハ枕^ニ衡山^ニ脚踏^ム北岳^ヲ、是モコノ一主人也、有一老人變作万物是ヲ此一主人變作万物何ト成ウトモ一老人ノ取作也、

(6) ○經云、十方仏土中、唯一乘法、拶、既□一乘(2オ)法為^ニ什麼^ニ有^レ頓^有漸[、]代、一本能^ニス^双幹^ヲ、此ノ心ワニツナレ共根^ヲ一ツゾト云理也、頓漸ト云イ分タレ共本法ワ一ツ也、急ニ悟ヲ頓法ト云イ、ヨソク

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

悟ヲ漸法ト云マデタコソアレ、法ニ二法ワ有ルマジキ也、本南ヘ指ヲ南枝ト云、北枝ト云テコソアレ、根本ハ只一本也、カウ見レバ只一乘法也、サテコソ南北東西ト分タレ共仏土ナレ、

(7) ○古徳曰、前^ヘニ無^ク釈迦^ニ後^ヘニ無^ク弥勒^ニ、中間^ニ無^キ自

己^ニ時^ニ以^テ什麼^ノ見^ル法性^ヲ、代、鴨頭ハ碧リ鶴頭ハ赤シ、此ノ心ハ鴨ワ碧リナルガ自性、鶴ワ頭ノ赤ガ自性也、向ウ看レバ釈迦不出世弥勒不下生時モ本分ノ自性ハ不移變物也、去ル呈^ルニ己^ノ性^ヲ云也、

(8) ○古徳云、衲僧家正命在^ニ別ノ人ノ手裏^ニ、即有^リ出身ノ一路子、代、分明上樹安身ノ法、外甥却来喚^ル阿舅^ト、此意ハ家々ノ秘流妙処ゾト云心也、猫児ハ血ヲスウ功ヲバ虎ニツ(2ウ)タヘタレ共、木エ上テ輒下秘事ヲバ虎ニラシエズシテ吾カセントノ時木エ上テ阿舅ト虎ヲ喚^ルトモ虎ハ本ヨリ輒下手ヲ知ヌ呈^ルニ猫児ヲシタガエヌ也、此秘流ヲ一ツノコスガラク意也、何ニモ此ノ手カナクテワ不^レ叶、宗旨^ハテハ専ラ愛肝要也、

(9) ○達磨西来將^ニ何法^ニ示人、各請^ニ一点語、代、鳥^ハ不^レ染^ル黒^ク、鵠^ハ不^レ踏^ルサ白^シ、

此心ワ鳥ノ黒モ鵠ノ白モ元来ヨリ本性テアツケルゾト知モ、達磨来ヨリコソカウワ心得ル也、其ノ前ワ何トモ分別ナシ、只見也、是方直指ノ道也、

(10) ○古徳云、出息不涉諸縁、入息不居陰界、拶、正当与麼時如何道、代、狗舐^ル熱油鑪^ヲ、又、赤眼撞着大柴頭^ト、又、小出大過、又、倒退^ニ三里、

是ハ何レモ当着ノ境ヲ云也、此事ニハツタト当境ハ入息モ出(3オ)息モヲホエサル也、狗ノ焼タル油鑪ヲ舐^ル位ワアツイトモ舌ノ焼トモヲホエサル境也、赤眼ノ頭モエルモイサシヲ眼中ニホツカト撞^ル入ル境ワアツク迄^ヲ、倒退ノ里ト云モ柱ニハツタトヒタイヲ撞ク時節ハ必スアトエガツバト退ク也、是モ境ヲ取ル也、

(11) ○澗山問僧、你名ハ什麼、云、婦真、師云、婦真何クニカ^ニ在^ル、僧無對、仰山代云、眼裏耳裏鼻裏、拶、仰

山意作麼生、代、憶^レ得^リ隻履西歸ノ事、

此意ワヲタイソト云意也、此ノ履ハ西天ニモアリ又東土ニモアリ、其由ハ真ニ歸スト云呈ニ真ノ面目ヲ問也、真ノ面目ハ無形ニシテトコニモ有物也、サテ多イソト云也、眼耳鼻ノ中ヲ空相也、空ニシ真ナル面目也、

(12) ○古徳一日彈指云、徳山棒臨濟喝、消^レ得^ス箇一彈指^ヲ、

拶、箇ノ彈指有^レ何ノ奇特、代、至裏ノ一言^軼レ^シテ凡^ラ成^ス(3ウ)レ聖ト、

此ノ意ワ至裏ノ一言ニ言句裏非ハ有ルマジキ也、一彈指下ニ理非善惡ガアラバサデワ有ルマジキ、徳山臨濟ノ処モ是非ハ在ルマイケレトモ棒喝ノ令ヲ行ズルト看レバ早ヤ理ニ落ル也、

(13) ○古徳婆子勘破頌、劈面三拳、匡腮三掌、尽大地ノ

人、不知痛痒、拶、此意如何道、代、憶^レ得^{タリ}趙州ノ無、又、白鷺下田^一花、又、石上置片瓦、又、二虎下獸不容蹄、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

畢竟此ノ意ロスキモナキゾト云理也、ヒシト面ヲコカル々処^デイタトモカイトモ覚^ヘバスキ也、趙州婆子ノ機ト一般也、少シモスキナキ也、無ト云モスキナキ理也、何レモ同心ニ可^レ見、白鷺カヤガテ雪キ也、黃鸝ガ花也、別ニ見ハスキヨ、趙州ノ婆子勘破モ誰モ勘破シタル理ワ無、此時只趙州婆子一般ノ心肝也、一般ノ時更ニスキワナキ也(4オ)、

(14) ○古語云、夫子不知字、達磨不会禪、拶、為什麼恁麼

道、代、北斗裏藏身、

此ノ意ワ孔子ノ上テ文字ノ沙汰ガ在ラバアカ也、達磨ノ上テ禪ノ沙汰ガ在ラバアカナリ、徹底ノ時ハ更ニ其ノ沙汰無シ、去呈ニ杜ッ雲門ニ僧透法身ト問タワ法身透徹ノカトヲ問呈ニ透法身ニ法身ノ沙汰ヲセバスキ也、サテコソ北斗ハ星ノ内ノ数星也、徹底ノ主也、主ノ沙汰ワ無キ也ト云意ニ北斗^一身トワ北斗ノ時北斗ノ沙汰ガナケレバ身ヲ藏ス也、亦着語云、徹底大海枯ト云ハ海ノ底ニツヨク徹シツレバ海ノ沙汰ハナシ、大海ト云ワクガ^モ□^シタル事也、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

(15) ○仲冬須^シ嚴寒^{ナル}、撈、今朝為什麼得^ニタル暖氣^ヲ、
代、雲有嶺頭閑不徹、水流潤下大忙生、

此意ワ(4ウ)キレメガナイゾト云ワ本性ニ至テ見レ
バ夏モ冬モ隔ワナシ、元來ニ冗^{見カ}処ガ在テコソ向上向
下モアレ共能ク至レバ只本ノ処也、キレメナシト云ハ此
意也、雪ハ嶺デモ溪デモイツモ閑ニ有事ハナシ、水モ
潤ヘ下タレ共イツモイソガワシクテ少モ留ルコトワナ
キ也、呈ニ是モキレメハナシ、能ク大徹大悟スレバ又
本ノ物也、代^キリメノ在ルワ小語也、

(16) ○経曰、修一切善法則得阿耨多羅三藐三菩提、撈、仏
之善法既如是、祖師門下善法作麼生、代、馬師胡亂
後、二十年不欠塩醬喫、

此意ワ馬師ノ胡亂ト云是法ヲ徹底悟リ了レバ只本トノ
凡夫也、代目ノ在ル間ワ未向上デワナキ呈ニ、二十年
味噌塩不入シテハ喫セヌゾ、ト云ハ入レタキ様ニ入テ
喫スルゾト云、是コソ真箇ノ善法ヨ、在ルヲ塩醬ヲ^〇
イテ喫セスト云ヘバイ(5オ)ラレトタブン心得ル、
是レハ大ノアヤマリ也、吾家ノ極リワカウ在ガ大事ノ

善法也、

(17) ○古語云、天得一以清、地得一以寧^{ヤスシ}、撈、衲僧一以堪
作麼生、代、広河徹底渾ル、

此意ワ濁ル物ワイツモニゴリスメル物ワイツモスメル
ゾト云意也、衲僧ノ一ヲ得ト云ワ一心ニ本付也、代目
ノナキガ衲僧也、別ニ代目ノ在ワ未徹ヨ、向上ガヤガ
テ向下也、

(18) ○長慶二十年間、坐七箇蒲団、猶未会此事、狄三為什
麼尉遲纒^ニ苔之便悟了、代、日高^{ケテ}花影重ル、

此意ワ什麼トモ斗ル間デハナキゾ、其故ワ尉遲モ狄三
ニ悟ヤウトハ何が打ヘキゾ、狄三モ打呈ニ悟入シタト
ワ何が可思ゾ、不斗悟合スル也、日モ花影モ重ヤウト
ワ何方照ベキゾ、花モ日ヲ帶(5ウ)テ影ヲ重ウトワ
何が可思ゾ、タクマスハカラヌ境也、

(19) ○古徳云、掘^{レテ}地^ノ寬^メ得^リ、撈、未審是レ何物^ゾ、代、
向^ニ空中^ニ作^ス獲^ツ勢^ヲ、

此意ワ真空ノ性ワ無形ニシテ法界ニ遍満スル物也、地ヲ方ニホレバ方ニ現シ、円ニホレバ円ニ現スル性也、来ルデモナク又去ルテモ無イ、空劫ヨリ拄^{サ、エ}テドコモ在ル物也、サテコソドチエツカンタモ空ニハツルタコトナシ、其振舞也、

(20) ○古徳上堂云、顧^ニ視^{スレハ}左右^ヲ富鄭公見^テ忽^チ契悟、

擗、古人坐破七箇蒲团猶未会、為什麼公早^ク悟^ル、

代、因^レ款^結案^ニ、

此ノ意ワヲ^ッノレト持^{ツテ}出^{ルト}云心也、款^ニ因^ト云ワ彼物ヲセメテ問時我ト白状シテ出ルヲ案文^ニ書付テ置テ其ノ罪ノカルサ重サニ依テ授スル也、此意ワ富鄭公ガ己レト悟ヲ以テ出タソト見時左右ヲ顧視(6オ)シタニモヨラズ、不斗悟合スル也、又、乾木易^シ爍^ヘ、是モ不斗理也、

(21) ○古徳云、全身放下時節、那箇是主人公、代、龍袖撥開全体現、

此意ワハヤミエタゾト云心也、龍袖ハ王ノギヨ衣也、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

御衣ノ袖ヲフリ掃ナサル々処デ早ヤ王ヨト知ル也、全身ヲ捨ル処ガ頓^テ本心也、又趙婆吸醉此レモヤガテ看エタゾト云心也、婆子ガ醉スウ面ヲシワムル処テスイト言ワ子共醉ノスキ理ワヤガテ見ヘルナリ、

(22) ○経曰、始知衆生本来成仏、擗、恁麼為什麼春有百花

秋有紅葉、代、松見レバ時雨ヲ染ヌ紅葉哉、

此意ワ各々ガ本性ノ性ゾト云リ也、万木ヲ時雨ハ染ル物ナラバ松モ竹モ枚モ栢樹モ皆黄ニナルベキガイツモ代ラズシテ緑ナワ時雨ハ不染只本性ヲ將テ出ル也、此ノ本性々々ノ仏(6ウ)性デワ無イカ、又南山筆筭、東海烏賊、是モ本性ヲヲノレト持テ出ト云也、南山ニワ去年モ今年モ竹ノ子ガ能ク出ル也、筆筭ハ竹ノ子也、東海ニワイツモイカ、多キ也、烏賊ハイイカ也、

(23) ○古徳云、老僧識得烏髻馬腮、擗、諸人如何識得、

代、有^レ眼無^シ耳朶、六月坐火辺、

是ハ異人ト云意也、眼ノ有耳モナキ物ガ六月炎熱^ニ火辺ニ有ルハヤワカツ子ノ人デワ有ルマイ、烏ノ口チバ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

シ馬ノアギト持タル人ハヤワ有此ノ異人ト云ワ一向ニ
世間ニ落チ下ラヌゾト云心也、若少モ下ラバ類也、衆
類ニ落ヌガ異人也、法身無相ノ位也、異トモ不可言者
也、

(24) ○古語云、目前真大道、纖毫不見、也太奇、撈、未審
箇道在何処、代、薰風自南來、殿閣生微涼、

此意ワドコニモ有ルト云心也、此道ハ無形ニシテ法界
(7オ)ニ遍満スル也、形無ケレバ見不着、取不取、

アトナク打ニ不レ碎、有力無イカ有ル者也、漢陽宮ノ
閣トモワ何レモ金殿玉樓成^ル呈ニ薰風ワ南ヨリ来アツ
キ風ナレ共何レノ坐敷エ行モ金玉氣涼シク冷カナル呈
ニ夏日ノ長ヲ夢スル也、其用処ヲ取テ宗旨ニワドコニ
モ有ゾト用也、

(25) ○経曰、応無所住而生其心、撈、作麼生は無所住心、
代、溪辺楊柳影、不碍釣舟行、

此意ワ所住無シテトコエモ移スト云心也、溪辺ノ柳ノ
影ワトヲル呈ノ舟ニワ移レトモ舟ヲ留ムヘキ思心ナ

シ、亦柳移ルト不思、舟移^口ワズト不思、此時所住ナ
ウシテ亦何ニモ生シタ心ナシ、亦如蝶吸花蕊不損色
香、是モ蝶ワドノ枝ニモ移テ花ヲスエ共花ニ不住、花
モ亦スワスル共スワルタトモ心ナシ、此時色モ不破香
モ不損、是(7ウ)カ無所住ノ心也、亦、月穿潭底水
無痕、箇ノ心ワ心月ニ心ヲ持セテ此心月ワ清水ニモ移
レ共水面ニ破レモセズアトモナシ、去共何モ移住ナケ
レバ無所住也、下卷代別有之、

(26) ○達磨大師云、我法三千年後、不移易一糸毫、撈、如
何是不移易底道理、代、南山箏筍、東海鳥賊、

此心ワ南山ハ箏ノ道地也、東海ワ鳥賊ノ道地也、是ヲ
云心ワ夫レ^レニ自ラノ本性ヲ以テ出ルゾト云心也、
此時何ヲ道テモ代ル間シキ仏道也、向ウ見^ルハ達磨直
指ノ路也、去呈ニ達磨未西天来、少林ニ有妙訣ト云ワ
達磨ノ来ヌ時モ夫レ^レノ本性ヲ以テ出也、又三千年
後モ如此ナルヘキ呈ニ一糸毫モ代ル不可ト云也、

(27) ○白楊順因法眼問、真仏住ニ在ス何レノ処^{ロニカ}、師云、

住在(8オ)不定処、眼云、既是真仏、為什麼不定、師云、若定即非真仏、乃領^{ウケテ}之、拶、答話意作麼生、代、真如不守自性、隨緣入諸趣、

此意ワ定相有ハ皆^{凡カ}□仏也、其故ワ真仏ワ形カ在テコソ、真仏ワ無形ニシテ十方ニ遍満スル也、サテコソ縁ニ隨テ諸趣ニ入ルト云ワ大ノ上ニハ大小ノ上ニハ小ニ現スル也、其ノ時定マル自性ナレ、亦、石頭大底大小底小ト云モ空相ノ物ニ現也、鑿穴方錐口円ト云モ此理也、

(28) ○東林顏僧問、如何是仏、師云、誌公和尚、云、某甲問^レ仏和尚為什麼答^ニ誌公ト、師云、誌公ハ不是閑和尚、拶、答意旨如何、代、報化非真仏、亦不說法人、

此意ワ真仏ワ問答ニ渡ヌ物ヲ問呈ニ問答能シテ化度ヲ面ニスルハ誌公ヨト云心也、サテ杜閑和尚デ非スト云(8ウ)ワ日々市町エ出テ化度スル呈、終ニ室下ニハナキソト云心也、報化ノ仏ワ皆化仏也、說法ノ人ニワ非スト云ハ無説無示無閑無聽也、其コソ真仏ノ説也、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

其說法デワ無キソト云心也、畢竟不説不聞コソ法身無ノ真説也、

(29) ○古德僧問、如何是仏、師云、汝不信是衆生、云、某甲深信、師云、若作聖解即受^レ邪、答話ノ意旨如何、代、金屑雖貴、落眼成翳、

此意ワ你仏ヲ不信、只凡夫ヨト云心也、有^レ僧ワ一片ニ仏ヲ信スト深ク留ル呈ニ、師云聖ヲバ可知ワト其會作邪路云一切知ル事ヲ知^レ解會ヲ作サバサテゾト云心也、サテ杜金ワ摺^{スリヌ}殘マデモ重宝ナレドモ一粒モ眼コニ入バ目ハ盲ルゾト云儀ハ是モソコニ留レバサテソト云心也、

(30) ○夾山見船子々々離鉤三寸何^ソ不^レ道^ハ、山擬^レ開口以テ(9オ)橈子^ヲ打^ニ落^ヌ海中ニ再三、山忽然點頭三下、拶、未審点^ニ頭^ス箇^ノ什麼^ヲカ、代、大尽三十三日、小尽廿九日、又、鷄向五更鳴、此意ワ點頭三下シタル者此ノ境ニ語ヲ入ルマ敷ソト心得ル也、前ハ毎度モ開口スルカ打入々々セラレヌ処デ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

悟り様ワ呈セウドスル心ヲ捨也、サテ杜代ノ句ワ語ノ
無イ理也、從來大ワ卅日、小ワ廿九日、鶏ワ五更ニ鳴
物也、無語処ガ肝要也、此ノ理ヲ點頭スル也、又新
婦駟騎阿家吸レ酢ヲ、是モ云ワレン処テ心得タゾ、心
ノ中ワ見タゾト云心也、新ヨメカ馬ニ騎テ来ヲ見テ阿
家ガ酢ヲ吸ト云ワ面ヲ醋イ面ヲ皺ムル意ワ云ワ子トモ
ヨメヲニクムベキ心ワキツカト見ル也、是レモ云ワ処
ロヨク通スル也、

(31) ○古徳僧問、香草未生時如何、師云、麤着腦裂ス、

云、生シテ後如何、師云、腦裂、擗、既是香草為什

麼麤(9ウ)着腦裂、代、腦後見腮莫共往來、

此意ワ香草ト云ワ我家一大事也、香草トハ名付草也、

其時從レ地モ不レ生無根モ色香モ物也、其時更ニフレベ

キ物ニテワナシ、在ヲ此僧ガ問呈ニフレバ頭腦裂スル

ソト云ワフレテサテゾト云心也、有ルヲ生シテ後ヲ問

呈ニ腦裂ト云ハ触タラバ腦ハ一定可避ト云也、サテ腦

後ノ腮ト云也、是モ畢竟ワ触レテハサテト云心也、

(32) ○天得一以清、地得一以寧、擗、衲僧得一以堪作麼、

代、拾口喫飯奴、又、天寒日短、兩人共一椀、又、

喫粥吞茶炉積薪、

畢竟心ワ衲僧得下云ワ此本心ヲ會得スル也、其後ワ只

クワウズ吞ウズマデヨ、若シ仏法ノ知見カ少モ有ラバ

学人見解也、得レ一衲僧デアルマジキ也、

(33) ○六祖云、吾自知去処、擗、作麼生是去処、代(10

オ)向六祖推出枕子、又、因、又、頭落又不知、

畢竟此意ワ頭ノヲチツク処ヲ云也、頭落ノ当位コソ

人々ノ生死ノ極ヨ、因ト云ワ人ノ頭ヲ打落時小ブエノ

切ル境ニ因ト云也、我モ不知況ヤ他人ノ不知処也、枕

子ワコウベノ落着ノ処也、

(34) ○如何是曹洞宗、代、因テハ馬ニ念レ車ヲ、因レ車念レ蓋

ヲ、

是ワ十分ニ上ノ極リ無キヲ云也、カチカタノ時ワ馬ニ

騎度思、馬ニノレバ又車ニ乘度思、車ニ乗ハ又トテモ

ノコトニ天蓋ヲサタセテ行カハヤト思呈ニ何ニツケテ

モ十成ヲモ□ガ洞家ノ宗旨也、何トテナレバ十分ナレ
バカクル呈ニ忌也、

(35) ○経云、是法一高下、作麼生是々法平等法、代、石

頭大底大小底小、又、錐口円鑿穿、又、高処高平低
処平、

下是ワ此ノ性ノ不到処無キヲヒ、カスナリ(10ウ)、

(36) ○石霜僧問、真身還出世也無、師云、不出世、僧云、

争奈真何、師云、瑠璃瓶子口、拶、石霜意旨如何、
代、僧繇敏手写誌公、

此意ワ瑠璃者少物カアレ共外エ見ル也、口^チ打アイテ
居タル瑠璃敏子ゾト云タルキワ何モナケレバ無相也、

無相コソ法身ノ真心ヨ、出世スル身ハ皆応化ノ身也、

法身ノ全体ワ無相也、サテコソ僧繇終ニ不得写誌公真
也、写得ヌ処ヲ写シタゾト云心也、写出ハ皆応化身

也、写出セヌ処コソ無相法身ノ全体ナレ、其心ニ代
也、

(37) ○古徳云、魚行水濁、鳥飛毛落、正平魔王与金剛際菩

薩一千年共住同行、其起所終不知、拶、為什麼其起

所終不知、代、憶得徳雲比丘在別峯見善哉古徳、

此意ワ魚一落者(口オ)其蹤跡分明也、魔王与金剛

但住同行之処ニシカト相逢時ワ□其理ヲ不知善哉之一

念動スル処デチャツト徳雲モ見ル呈ニ別峯トハ相見ス

ルヲ云也、其箇歩ヲ移テ相見テワナシ、一念其処ニシ

□^カト居ハ其沙汰ワ無キ者也、又、潘閻倒騎駒ト云ワヒ

ツタト廬山ニハマツテ居テ其ノ風涼ヲバ不知呈ニ山ヲ

出テ駒ニ騎^レ倒タル処テコソ真箇ノ廬山ノ景ヲバ見タ

レ、箇ノ心ロモソコニ有テワ其ノ理ヲシラヌゾト云用

処也、

(38) ○趙州一日与官人遊園次見兔驚走、官人問云、和尚是

大善知識為什麼兔驚走、師云、為有我殺意、拶、州

意作麼生、代、借婆裙子拌婆年、

此意ワ官人不審スル機ヲ見テ驢テ其機ヲヨツトツテ打

合ル也、何ガ趙州ニ殺ス意ワ可有ゾ、サテ杜婆借裙

子アノトシニア(11ウ)ノ年ニアヤカレト拌スル機ワ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

吾手ヲバ出サヌゾ、持来カトニテナキ合スル心也、是ガ納僧ノ活手段也、他物ヲ其俣受用スル也、

(39) ○般若經云、一切所見色是盲、一切所聞声是聾、拶、

因什麼恁麼、代、菱花対像、虚谷伝声、

此意ワ一切色ヲ見テモ色ニ看セズ、解会ナケレバ只見ヌ也、サテ杜盲所聞声モ只同事也、サテ杜鏡ノ万像ニ対スレ共見心ワヤワ在其時モ盲同事也、虚谷声ハ在共呼ヲ聞テマタヨツトワヤワ思、其時只聾ト同事也、

(40) ○古語云、真如不守自性、随縁入諸趣、拶、随縁底ノ

道作麼生道、代、地掘覓得、

此意ワ真如性トワ真空ノ性也、定メタルイカタガ有マシキ也、無形法界ニ遍満シタ有性也、サテ杜ドコヲホレトモ其呈ニ現スル也、周遍十方身ト云(12オ)モ是也、不在一處モ同事也、周遍シタトテキレ共不開、
捻^{ヒテ}トモ不^レ□^レ□^レサテ杜不在一切処ト云也、

(41) ○鳥巢^{スツウ}ニ樹林^ニ、百日満時巢^{ナリ}、于子ウム今日大川空^{慈雲開基}

公大禪師百ヶ日也、向^テ何^レノ処^ニ行李^セン、代、大衆下語^箇々ニ金声玉振、山僧ハ不^レ然^ラ、趙州不^レ道^ニハ東院ノ西^ト、

此意ワ東院ノ西ニ有卵塔々々ハ無頭無尾無背無面成者也、是カ本来面目也、本ワ無住処無根本也、此ヨリ出テ心意此行李スル也、サテ杜趙州モ真ノ帰処ノ答話ニメサル々也、今日大川モ如是行李セラル々也、

(42) ○打破虚空底時節作麼生道、代、要^レ頭斫將去、

此意ハ虚空打破トワ人ノ一息截断之時節四大分離当位也、代ノ心ハ頭ヲ切^ル臂ヲ切^テ出ス也、其モ一生ノハタシ処ヲ云也(12ウ)、

(43) ○古德僧問、如何是禪、師云、古塚不^レ為^レ家、拶、答

話意旨如何、代、二十五絃彈夜月、

此意ワ只聞ウズガ肝要ト云也、何トテナレバ此僧ガ問呈ニ真ノ禪ハ我ト会得スル也、師ヨリ聞カントスル呈ニ是コソ禪ヨトワ何ヲ取テ出ベキゾ、一韻ノ字ヲ取テ蟬ノ字ヲ以テ是ガ事カト云也、宗旨ニナキヲヤメルト

ハ此カト也、本意ライワントスル呈ニ先トイ来意ヲ休也、塚穴ナンドニワヲラヌ者也、サテ杜不為家ナレ、又、虚谷伝声、又、吟松啄露、是モ蟬ノコト也、虚谷声伝トハ響用処也、以黄葉休児鳴、是モ問心ヲ休スル用処也、

(44) ○永嘉云、自從^レ認^レ得曹溪路^ヲ、了^ニ知^ス生死不相干^サ

ルコト、拶、嘉大師底且置、諸人如何了知生死不相干、代、竹影掃階塵不動、月穿潭底水無痕(13オ)、是ハ掃不掃穿不穿理也、ナセニナレバ竹影階ヲ掃ト云思心ナク、階モ又掃ルニト思心ナシ、其時掃テ不掃、月モ水面ヲ穿ト不移水モ移ト不移、此時終^ニ痕ナシ、此ノ如曹溪ノ本分ノ一路ハ生死ニ曾不預、本来ニ生死ノ沙汰ガ在テコソ此ヘ走心モナクコトヨリ去心モナシ、其時全ク不預生死^ニ也、

(45) ○古語云、十方世界者以^テ五十年ノ睡夢^ヲ為^レ寔^ト以^レ覺

スルヲ為^レ虚^ト、娑婆世^ハ者以^レ寔^ト以^レ睡^ト為^レ虚、拶、未審何カ真ナル、代、覆手為雲翻為雨、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

是ハ為雨為雲ト云モ只一手ノ翻覆呈ノコト也、睡ヲ寔トシ覺ルヲ為虚モ、覺ルヲ寔トシ睡ヲ虚トスルモ、只一手ノ翻覆呈ノ代也、其故ワ本心本性ニ至テワ虚寔モ無ク睡リ覺ルト云理モナク雲雨モナク手翻ト云サタモ無、世界ニ現スト云コト也、喚名(13ウ)付ル呈ノコト也、皆夢幻也、夢幻モ無キ処コソ本心本性^ナテレ、

(46) ○經曰、十方仏土中唯一乘法、拶、作麼生是一乘ノ

法、代、此土西天モ無別法、此意ワ一乘ノ法ヲ指シテ云也、一法トワ無法也、無法ハ本法也、十方仏土中何処^ニ無ラザル、其ノ時別法ワ有ルマシキ也、此土西天ノ一法ト云モ以無法為本法也、

(47) ○經云、若能轉物即同如来、諸人作麼生轉物、代、勵

声云、清淨本然云何忽生河山大地、此意ワ森羅万像^ヲ本然^ト見レバ其假山河大地モ目ニハカタラヌ呈ニ、云何ゾ山河大地ハ生セント云ハ目ニハ掛ヌ也、包丁人ガ牛ヲ見レバヤガテソコワ一ノ刀ゾ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

ソコワニノ刀ゾトソコく、デヲロス呈ニ肉ヲバ破ラ子
トモ其俣ムナシクスレ共終ニ全牛ヲバ見ヌ也、色即空
ト也(14オ)、

(48) ○昔有婆子、供養一庵主經二十年、常令一リノ二八ノ

女子ヲ送レ飯給仕、一日令シテニ女子ヲ抱カ女云、正与
麼時如何、主云、枯木倚寒岩、三冬無暖氣、女子

還拳似、婆云、我養箇俗漢、即放火烧却、庵ヲ逐
ニ追ヒ出ス、拶、婆為什麼恁麼道、代、海底ノ珊瑚撞

着月、

此意ワマタモ湿氣ゾト云心也、大海ノ底ニ有物者一滴
キモナクカワキ、ツタトキコソ珊瑚ワ出レトモ枝ニ潤
イガ有レバコソ月ワ移レ、ソコヲ以テ湿氣ゾト云心
也、庵主ノ処ヲ煩惱湿氣ハ尽ハテタレトモ暖氣ワナキ
ゾト云心ガ在ルゾ、鉄牛不怕虎狼、逐ニ可キ驚湿氣モ
有テコソ鉄牛ニハヨソレヌト云心モナキ呈ニコソ取
也、主ハ暖氣ナイゾト云キ有ルゾ、呈ニ婆子ハ其氣ヲ
サヌ呈ニ俗漢トナラウ也、代ノ心モ(14ウ) 枝ニ月ヲ
移スワマタウルヲイゾト云心也、着スル也、婆子ノ其

氣ヲ尽サヌゾト指タル氣ト同物也、

(49) ○趙州云、須因本分事接人、作麼生是本分事、代、松

見レバシグレワ染ヌ紅葉カナ、

此意ワシグレガ染バ松竹ヲモ何ニガ残スベキゾ、モミ
ヂスル物ワモミヂシくセヌ物ワイツモノ色也、此時
本分本性ヲ見也、本来成仏ト云モ此心也、州ノ意ワ本
分ニヨラヌワ皆彫琢スルゾト云ギ也、

(50) ○古德云、天台普請、南岳遊山底人、脚跟下好与三十

棒、拶、此人有什麼過、代、以扇子打地云、現成公
案、

如是スル事三度也、此棒ハ一主人ヲ指シテ云也、トコ
デモ当ル棒也、何モ当ト見ハ現成公案也、

(51) ○今朝九月九日、年々皆賞レ節、為什麼不レ道ハ(15

オ)レト而賞ス九ヲ、代、上到須弥猶一、又、馳
書不到家、又、頭上宝花冠、又、澄源一孤舟、
又、一重一重山、

山河モマダ上ガ在ト云リ也、何トテナレバ洞家ワ十成ヲ忌也、十分ナレバカタクム呈ニ須弥上デマダ上ガ在ルト云也、文ヲヤレトモトミカ子バ上ガ在ルゾ、舟ニ棹セバマダラクガアルゾ、何モ上ヲ不犯ガ洞家ノ宗旨ノ向上也、

(52) ○古徳云、色為色非真色空為空非真空、作麼生是真空、代、論不_レ可_レ以_レ五彩、

是ワ五色ニワタラヌガ本色也、五色ニ渡ルワ目前コト也、久遠以前ノ事也、空々寂々トシテ衆色相ニ渡ラヌ一処也、瞎_ニ却眼睛_ヲ始_テ可_レ得、是モ衆色ヲ分ヌ用処也、真空ヲモ此趣_テ可_レ見、有無ニ渡ルワ真空ニ不_レ在不_レ渡処コソ真空ヨ、此代ニ錐口円鑿穴方、又、目裏_一 (15ウ) 鼻裏、是ワ何モ無形也、又充滿也、曾テ相見ニ不_レ預ナリ、

(53) 同云、空為空不真空、色為色非真色、真空真色諸人一_レ句将来、代、描不成画不就、

此意ワ形モツクラレズ画ニモカタレズ、其ノ故ワ本空

『慈雲開山金剛和尙代語』翻刻(上)(龍谷)

ワ形カ有テコソ真色モ五色ニ渡テコソ画ニモカクベケレ、画ニモカキ不出処コソ真空ノ性真色ヨ、

(54) ○古語云、知恩者多、報恩者少、撻、衲僧家報恩底是誰、代、五逆兒報恩有分、

衲僧ワ殺父殺母不_レ識_レ有_ニ父母_一者ガ真孝也、此時恩ヲ報ヌガ能ク報也、本分ニワ無父母無師兄弟、其時知恩報恩ノサタナシ、

(55) ○智覺大師云、莫_レ將_レ心_ニ為_レスルコト伴、若動_ヤスレバ被_レ心_ニ諷_セ、將_レ(16オ)心不_レ為_レ伴底ノ事作麼生道、代、

從前知己還作_レ冤、好事不_レ知_レ無、又、金屑_一 翳、此意ワ本心本性ワ一度會得セテワ叶ヌ事コト也、ソレモ肝要ト留_レバ心ニナヤマサル、ゾ、將_レ心_ニ為_レ伴セヌリワ從前ノ知己シタル者モ着スレバ必スアタニ成ルゾ、甚深近付バ殊ニ後ニハ敵ニナルゾ、早クスツルガ好ゾ、好事モツヨウ重レバアヂモナクナル呈ニヤガテサシノノクルガヨキゾ、又、金呈ノスリクツマデモ重宝ナレトモ眼ニ入バ必ス目ノ病トナル也、是モ見留ヌ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

カヨキ也、本性ニハ本ヅカズシテワ叶ワヌ事ナレトモ
真ノ会ヲ本ントスレバ還テ寃也、

(56) ○機翁示衆云、南山筆筭、東海烏賊、横川聞レ之太

悟、擲、悟箇什麼道理、代、因款結安、又、本有ノ
性ハ非強為ニ、

南山筆筭ヲ自筭ノ性ヲ以テ出ル也、誰彫(16ウ)琢ス
ル者ナシ、東一賊同事也、己ノ性ヲ以テ出ル
ナリ、因一結ル也ト云モ吾ガ罪ヲ吾レト白状スル呈
ニ其俛記其罪ノ様ニヨツテ行レ之也、各々以テ出ルト
云心也、本有ノ性ワソバヨリ云ワ子共我ト以テ出ル者
ナ呈ニ、シイテワナサヌ者也、又、桃紅一李白一
紫、是モ桃ハ紅ニ李ハ白薔薇ハ紫ナルカ各ノ本性ヲ以
テ出也、横川大悟モ機翁終不伝ウシエズ自以テ出ル
也、

(57) ○仏日禪師与僧答話次、見ニテ猫児ノ来ヲ擲ニテ勃鳩ヲ与

猫児ニ、猫脚ニ去ル、仏日云、俊ナル哉、擲、仏日為
什麼恁麼道、代、若不恁麼何時免ニ此窟ヲ、又、好

心不得好報、

代ノ意ハイツ迄テ勃鳩デワ可置ゾ、此テ点セサスル
カ納僧ノ救イヤウ也、サテ杜仏日モ俊哉ヤト猫ヲホム
ル也、又好心ト云ワ報恩ヲ受ヌガ真ノ好心也、因ニ依
果報ヲ(17オ)請ルワ常ノ心也、仏日ノ猫ニモ鳩ニモ
ヨラヌ杜ツ好心ナレ、

(58) ○經云、凡所有相皆是虛妄、作麼生カ実相、代、管見

虚空穿、

此意ワ本性也、無形シテ充滿也、呈ニ無欠無余不增不
減不生不滅也、筆ノ軸ヨリ看レバ窄ク看ヘヒロク看ワ
タセバ限リナシ、畢竟是ハ実相也、又、峡中天窄、峡
外天寬、是モセマキ処テ看レバセマク寬キ処見レバ
無限也、性ト不レ云シテ響理也、有ル呈ノ相ハ皆滅
也、サテ杜虛ト云也、

(59) ○古徳云、六々三十六、九々八十一、摩訶一蜜、

擲、古徳意旨如何、代、師打柱一拍云、低声々々、
此意ワ句中無心也、言句ワ在トモ珍敷理ガナケレバイ

ワヌ也、ソレヲ至極ト云也、其ノ心ニ柱ノ物云ヲカシ
マシイゾト云ワ謂ヌゾ也、サテコソ低声々々ト云リ
也、衲僧ノ語ト云ワ理ナイコソ実語(18ウ)ヨト云リ
也、又、清風動条竹ト云モ竹ガ動イタゾト云ワ物云タ
デハ有マイ、有語中ノ無語也、

(60) ○釈迦請然灯仏^一時、截髮毛敷地、至^三災壞劫^二時
其地不壞、拶、為什麼恁麼、代、龜瑕眼赤湖水沾
天、

是モエ不斗仕合スル理也、又、鬼箭落風前、又、雨後
山添翠、何モエ不斗理也、可然コト也、世尊モ終ニ不
知、燃灯仏モ終イニ不知也、不知^レノ理也、

(61) ○葉山問高沙弥曰、我聞長安甚鬧、汝知否、弥云、吾
国晏然、山忻然、拶、作麼生是吾国、代、洞山不道
麼、汝何向無寒暑処不去、又、蕭何壳却仮銀城、
又、心頭無事一生樂、

葉山ワ沙弥ノ見処ヲ可^レ見ト問也、沙弥モ能聞テ取呈
ニ吾国トテ(19オ)別ニハナシ、心頭無事晏然シテイ

『慈雲開山金剛和尙代語』翻刻(上)(龍谷)

レバ其コガ吾国也、晏然ハ静ナル心也、鬧市紅床デモ
心底ニ事カナケレバ吾国ト樂也、洞山ノ無寒暑ノ処エ
去レトヲセラレタルモ別ニ処ガ在^レデワナシ、徹底熱ノ
時寒熱ワナシ、其時ヤガテ無寒暑ノ処ナリ、別ニ在ル
トミタラバタブラカサタル也、サテコソ蕭何が銀城ア
ルゾト云ヲバ誠ニシテ終ニ秦王ワ国ヲラル、ワタプ
ラカサル、也、心頭^一樂ト云モ無事ガヤガテ吾国安
然安樂ノ国土也、

(62) ○古德云、石倉玉^ヲ則山先潤^ウ、水倉玉則川媚、拶、
山僧胸中有真珠、未審有何德、代、二時粥飯除^ニ雜
用心、

此意ワ玉ノ徳ワ山ノ潤処デ見へ、川ノ媚タル処デアリ
ノ俛現スル也、衲僧心中ノ玉ノ徳ニハ尽クノウジ了テ
持タイヤウニミヲ持ガ玉ノ徳也、粥ト立シ、飯ト立
(19ウ)スルワマダ衲僧規矩法事^ニツナガル、呈^ニ未^レ
心安呈ニ其ワ雜用ノ心トテ用ニワ立ヌ事ゾト打スツル
物ワ何デモアレ、在^レバ何時モ時尅ヲ不定食度ヤウニウ
チ食呈ノ活計ワ有マジキ呈ニ、是コソ真珠ヲエテノ徳

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

ナレ向上也、下卷別ニアリ、

(63) ○古徳云、蜂房ハ於梁間以漆液固其帶、鵲巢於樹杪累百日而成、撻、是什麼道理、代、皆具円覚性、為凡夫顛倒、又、一切衆生悉有仏性、

此意ワ蜂房者ツヨキ物也ゾトヲシエル者モナシ、鵲モヲノレカ本性ヲ以テ出ル也、本性トワ仏性也、仏性トワ円覚也、円ワ理無レ不レ円、事不欠云、覚衆生皆具覺性故ヲノレト以テ出ル也、在ルヲ自然ト心得ルワ外道見也、ヲノレト以テ出ヘキトモ不思以テ出ルヲモ不知時不覺不知不計シ合スルリ也、有情非情トモニ此性也(20才)、

(64) ○今朝竹居為ニメニ和尚ノ諷經、既是竜文開山大和尚、為ニテカ什麼ト箇ノ破屋中ニ来ル、代、山裏ノ師子弄^ス村裏ニ、

此意ワ尊貴辺斗リワ一隻手トテカタウテナリ、大二儀門ニ下^テ為^レ人スル処杜柄僧ノ両手元全ト事裏相応ノ処ナレ、師子モ深山裏斗リデワ威勢力有モ無モ人ワ不

知、村裏エ下テコソ人モヲソルレ、百獸モ身ノ毛ヲ立テ、ヲノ々キ廻^ル処デコソ威勢ガ弥^ルマサル也、代モ其ノ心也、又積代簪纓、^{是レ師家ノ二儀ニ下ル簪纓}暫時^{落魄}、^{是モ代々カ}ンムリデワクタイ^東デアル人ナレトモソツト下界ヘ下テコソ世界ノ事ヲ誠ニ知ル者也、上界斗デワ一片漢也、管見虚空穿、此意ワ筆ノ軸ノ中ヨリ空ク看レバ少シ斗看ル也、ヨツ取テノケレバ広ク見エル也、虚空ハ闊モ不非セバクモ不在、空性ハイツモ増減ナシ、故ニ真空ノ(20ウ)性ニ喩ル也、此処ヘ現シヤウモ如是也、

(65) ○南泉王老師二十年前也曾恁麼来、州云、即今作麼生、泉即歸方丈、撻、意旨如何、代、向^ニ徳山老漢^ニ問取セヨ、

此心ワ南泉ノ行李ハ二十年以來恁麼ト云ハ只イツモノ有リヤウノ俛テ有ゾト云^{也カ}、州ノ即今ワト問^ル処デチャツト方丈エ歸リタケレバ歸ル也、出デタケレバ出ル也、乘^{シテ}興^ニ来リ興^クレバ歸ル也、何ニモト々コウラザル也、徳山托鉢来モ出タケレバ出歸タケレバ歸ル也、雪峰ノ処ヘハヨラン也、

(66) ○洞山云、寒時寒殺闍梨、拶、即今徹底寒是_レ同_カ是_レ別_カ、代、白鷺下田_一花、

此心ワ寒時寒殺ト云ワスキモナキリ也、此本性ノ上下_ケニ相サタエタルコト也、即今寒モ通身ニ徹スレバ吾ト雪ト隔テナシ、此時スキワ(21オ)ナシ、畢竟性ヲ指テ云也、又、憶得石上置片瓦、是モスキナキコト也、又、拄天拄地ト云モ同事也、下卷別_二代_レル也、

(67) ○洞山僧問、如何是仏、麻三斤、拶、此僧既問仏、洞山為什麼云麻三斤、代、家童為問_一秋、

此僧モ応化ノ仏ハ現在ニ見ル呈ニ問迄デモナシ、真仏ヲ問也、山モ真仏ヲ何ト云ベキゾナ呈ニ言句ニ渡ワ皆化仏也、何トモ答ベキヤウナシト案シソツラウ時分ニ口チ本ニチヨツト出合タ呈ニ麻三斤ト云也、答話ニモセウズヤウナケレトモ言イ合スル迄也、全ク答ト不可見、有語中ノ無語也、代心モ詩ヲ引タル用処ワ有ル者ガ美女ノ帳ノ中へ忍入テホソ声ニテウタ々ト謂ヘトモ更ニ頭ヲモチアゲヌ呈ニ鴛鴦帳裏懶擡頭、真箇イカト_ヤウホサバ一向ニ思イ切りサウズ、サテ杜汝着無_レンハ心

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

○我又休シトツブクヲソバニイタ(21ウ)ルワランベガ何事ヲ其ヤウニツブヤイテヲセラル、ゾト問呈ニ、家童_一意アレトモ意ノ中ノコトヲバ何ト云ベキゾナ呈ニ、笑テ指_一秋ト月ノ窓へ指入タルヲ看ルヨトソバ言ニ云イナシタルハ更ニカウトモイワレン処也、麻三斤モ能ク似タゾ、又、無物堪比倫、今我如何説、是モ寒山ノ詩云、吾心似秋月、碧潭澄皎潔、此意ワ是迄ワ比シ出シタレトモ更ニ比シ出タサレヌ心ガアル呈ニ、無物_一説トサイサン吟シテ置迄也、是モ麻三斤ニ能契当スル呈ニ取ル也、又、松嶋ヤ小嶋如何人問バ其俚語言モナシ、是モ同心也、

(68) ○法眼云、尽十方皎々地、無一糸頭、若有一糸頭、即是一糸頭、拶、法眼意作麼生道、代、清淨本然云何忽生山河大地、

是ワ皎々地ト云ワ本有神光也、此ノ神光ノ到ラザル処ワナキ呈ニ、尽十方世界明ナ(22オ)ゾト云也、其時若一糸頭呈モ目ニ懸ル物在バ即是一糸頭ゾト云ハハヤ別ニマジリ物カ在ルゾ、ト云ハ森羅万像_(マ)神光ニワツ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

ル々物ハ有マジキゾト云心也、代モ清浄本然ト云ワ万象ニ汚穢セル此性也、是ハイツヨリトモナキ呈ニ本然ト云也、只一目ニ本然清浄心ト見ハ山河大地草木叢林モ有情モ別ニ目ニカタラ又呈ニ、何ゾ忽チ生ニ山河大地ト云ワ其俱清浄心ト見直ス意、法灯拈云、前ニ在也、又法灯云、若有一糸頭不是一糸頭、拶、法灯意如何道、代、琅琊不ヤ道ハ麼怒レカラシ眼ヲ励マシテ声ヘテ清浄本然云何ト地、此心ワ法眼ワ山河大地モ本有ノ神光ゾト云モマダ山河大地ヲ目カ、ルゾト云心ニ云何ト地ゾト云ワ総テ目ニカ、ル物ワサウ又物ヲト云也、是モ当体即空眼、下卷別有之(22ウ)、

(69) ○古徳僧問、併却咽喉唇吻作麼生道、徳云、新婦ト

吸醋、拶、答話意旨如何、代、桃花依旧咲春風、又、嚶子喫苦瓜、

此意ワ新婦ガ騎レ駝来ハ、シウトメガ醋ヲスイ口シタルヲヨメヲウケガワヌ心也、早ヤニクムベキ□ワ云ワ子トモキツカト面ニ見エル也、言ニ出テニクイゾトイワヌ斗也、代モ云ワ子トモ知レタトト云心也、桃花ハ

物ヲ云ワ子トモ春ノ道ヲバヤガテ持テ出也、古句ニモ桃李不言下自成蹊ト云是同心、嚶子ガ苦瓜ヲ食タル面ワニガイト云イ不得共苦心ワ面ニキツカト見タゾト云心也、又趙婆吸醋ト云句モアラズイヤト云ワ子トモキツカト見ル也、口ヲフサイテ云様也、無語中有語也、

(70) ○古徳云、玄沙不出嶺、保寿不渡河、是什麼道理、

代、江南兩浙、春寒秋熱、

此意ワ玄沙ワ指頭(23オ) 籌破処デ無端心得タル呈ニ出テモ云ベキコトガ在ハヤサテコソ終ニ出ヌ也、保寿渡レ河ヲヌモ前ニ心得タル呈ニ、河ヲ渡テモ別ニ云ベキ事ガ在テ杜呈ニ渡ラヌ也、其ノ心ヲ受テ代ノ心ハ江南兩浙ノ春寒ク秋熱スルコトヲ誰モ知テアル呈ニ、兩尊宿ノ処ハ世間ニイツモ有ルコトヲ云ヘキハ不レ知別ニノベタキコトハナキゾト云心也、又、三年逢一閏、又、鶏向五更鳴、是モ三年ニ一度閏月ノ在ルコト誰ガ不レ知鶏ノ五更ニ鳴コト誰ガ不レ知ルカヤウニ在コトヲ可レ云迄也、

(71) ○迦葉尊者伝_ニ釈迦金襴衣_ヲ、入_ニ寶鉢羅窟_ニ待慈氏之
下生、要掛在千尺之身、撈、釈迦丈六袈裟如何得相
応弥勒千尺身、各請一点語、代、河辺月日軍一
草、

此心ワ仏図々々ノ心也、不エ不斗シ合スルト云心也、
思イ斗ニワナルマジキコト也、極位向上仏法ノ妙理
也、ヨクく(23ウ)口伝在之、又儀子方筆画ルコト
入レ石三分、是ハ手中ノ妙理也、是レモ計テワナルマ
ジキ也、又、仲^申則沙界_ニ遍、縮則方寸中、是ハ性ノ理
也、此ノ性ワ定相ナキ小ニハ小大ニハ大也、又、真如
不守自性、隨縁入諸趣、是モ性ノ理也、性_ニ無定相、
アレトモドコエモ巨ル也、大小高下長短方円ヲ不定キ
ヲワサル也、

(72) ○古徳云、維摩是金粟、為什麼在釈迦会裡聽法、撈、
是什麼道理、各請一点語、代、従前汗馬無人識、只
重要論蓋代功、

是ワ維摩始_テ聽_ニ釈迦ノ法_ヲデワナシ、此事ワ幾度モ千
鍛百鍊シテこそソ法ノ長処モ妙理モ在ル物ナレ、容易

『慈雲開山金剛和尙代語』翻刻(上)(龍谷)

ニセザル道理也、サテ杜代ノ心モ以前ニ馬_ニ汗ヲカカ
セテ大功ヲ施タレトモ本功ノ間也、サテ蓋代ノ功トハ
功ノ間ヲヌケテこそソ大功不賞預ル間ノ者真ノ功テワナ
キゾ、其故功無功到汗馬(24才)高ト云ハ功ノサタモ
ナク賞ノ恩モナキ時真実功也、不経妒冶争識真金ト云
モ此心也、維摩聞法同コト也、

(73) ○古徳云、大地は一箇胡餅、諸人作麼生下贅、代、遠
劫_ニモ不飢、

此心ワ此性ワ自_レ久遠劫前尽乾坤_ニサタエテ在物也、
衆生ノ身門_ニ満テ在物也、其ヲ胡餅_ニ比シテ示_レ衆人_ニ
也、喫シヤウヲ乞テ人ノ機ヲ看ル也、代ノ心ワ幾千万
ノ劫ヲフルトモ不飢ト云ワ始終肚裏_ニ満チフサガツテ
在呈_ニ、クウベキスキガ在テこそソ喫スルワ別_ニ在テコ
ソクウト云ワ外_ニ在ルヲこそソ口エ入ルタトワ云ベケ
レ、亦肥_レ從_レ口不_レ入ト云モ同コト也、口_チヨリ入食
キハクワヌ時ワヤスルナリ、此食ハ元来_ニ肚_ニ満ル呈
ニ、肛_チモヤズヤセモセヌ食也、不断食ト云モ是也、
生命食ハ口ヨリ入テ命ヲ養食也、又、不較多是モ此性

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

ハ多少ニ不_レ渡_二大小_二不_レ巨_二増減_二數量_二満又呈ニタク
ラフヘキ物更ニ無シ(24ウ)、

(74) ○円悟住_レ雲居時大恵為首座、時有僧聞_三大恵ノ頌_ニルヲ女

子出定話_ヲ即有_レ省、後_ニ以_テ投機ノ頌_ヲ請_ニ大恵ノ証
明_ヲ、僧未_レ拳_レ頌_ヲ、大恵ノ云、不是々々、拶、此僧
頌未_レ拳大恵為什麼道不是々々、代、我王庫裏無如是
刀、

此心ワ此僧ノ省処方余無_レ端見エタル呈ニ頌迄デモナ
キヲ見解ヲ呈セントスル呈ニ不是ト云ハキラウヤウニ
テ取心也、棒ニモ打納ルト云棒アリ、其ノ心ト同コト
也、代意モ嫌テ取心也、其故ハ大唐ニ或時ノ王子好き
刀ヲアル者ガタバカリ取テ王ノ処エ持出テ売ト云、臣
此者ト親友也、王ノ御目ニカケントテ天子エアグレバ
王ノ重宝也、是ヲ取是臣此者ニ云ヤウハ如是ノ御刀ワ
曾王庫裏ニ御座ナキ呈ニ御用ワナケレトモ吾カ平生ノ
友トテ持來ル呈ニ其ノ志シ斗_ニ吾留ルゾト云テタヤス
ク買テ取留ル也、上_ニワ嫌テ底_ヲハ留ル也、学者ノ呈処
ノ(25オ)無端ヲヤガテ取レバアマリアザトニナル呈

二十分ナルヲサデワナイゾト嫌ウテ取事也、是カ仏法
ノ秘密也、是ガ十分ゾト云ワ仏法ノヨク意カアザトニ
ナル呈ニドコデモ一手ノコスガ妙理ゾ、

(75) ○除夜問諸人云、旧歳已尽、新歳未到来、不涉_二途時

如何泄_二劫外馨香_ヲ、代、確鬻生花分外奇、
此意ワ新旧ノ時節ニ不涉コソ劫外ヨ、確鬻_ノ花ワ陽氣
ヲ受ズシテ開ク呈ニ劫外也、此馨香ワ鼻孔ニ入ラヌ呈
ニ奇ト云也、又、石上已抽千尺笋、又、鉄樹花開劫外
春、又、鉄牛夜半ニ嘆イ呵々、何レモ同コト也、

(76) ○古徳云、元啓祚万物咸新、如何カ是啓祚底ノ事、代、

山門与且門僧榮、法輪与食輪常転、
是ワ年頭ノ吉事トハ是也、両輪転スル時カケタルコト
ハ有マジキ也(25ウ)、

(77) ○冬夜示衆云、今夜群陰剥尽、明朝一陽来覆、不涉_二

途処、諸人作麼生道、代、因、是ワ因地ニトツテ見
ル口伝有、甘贄行者接待ス、有_レ僧問_レ行者云、接待

不_レ易_レ麼、者云、如_レ駟驥々々、後來古徳拈云、明年
為_レ行者ノ買_ニ一_ニ領直襪_ヲ、擗、古徳意作_レ麼生、代、
婦依_レ仏法僧、

此心ハ今行者ト喚バレテ寺ノ贗徒ト作ルハ前生ノ行ガ
少キニ依テ如此也、今觀ジテ駟馬ニ物カウハ畜生ノ法
ヲ受ジト云心也、在_レヲ婦依_レ仏法僧ト唱ヘルハ直_ニ出家
ニナレト云心也、仏戒ヲ唱ヘカクル也、古徳ノ意ワ今
マハ人ト下部_ニト成テ身ヲスグル呈ニ、明年扶持スル
也、ナカラウ時一衣ヲアタヘテ過スベキゾト云心也、
是モ意ハ來年ハセメテ衣スガタニナレト云キ也、又、
兼_レ身在_レ内、此心ワ身ワ行者ナリトモ後生ヲヨク觀ス
レバ内心ワ出家也、サテ杜ソ兼_レ身ゾト云心也、内心
ガ出スレバ善処ニ行クベキゾトナリ(26才)、

(78) ○百丈侍馬祖ト行次、見_レ野鴨子飛過_ヲ、祖云、是什麼
ト問、擗、百丈省悟意如何、代、南山筆筭、東海鳥
賊、又、飛者飛走者走、

此心ワ物ノ上デ心ヲ付ケサスヘキ用処デ在_レヲ丈ワ
未心得_レ只野鴨子ト云、祖云、猶モ不_レ休何処ニカ去ルト

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

云処ニモ心ヲ付サセントスルニ丈ワマダモ不_レ心得_レ只
飛過去ト云呈ニ、祖百丈ノ鼻ヲ捏ワ此テ痛ヲ知ラセン
ガ為也、在_レヲ只負痛失声ノ声計スル呈ニ、祖ノ又道飛
過去ト云心ワ未_レ夕其機ヲカヘカト云心也、此テ機ヲカ
ヘテ省悟スル也、此心ワ頭々物々ニ在_レル此性ゾト悟
也、代ハ物々ニ各以テ出ルト云心也、又、翼_ニ在_レル者ワ
飛足在_レ者ハ走、是モ自以テ出_レル性也、百丈省悟、後
婦_ニ侍者寮_ニ大哭シタル機ノ代タルシルシ也、童子ハ
心得_レシテ父母憶カ人ニノラル々カト問呈ニ、丈ハ何
レモ無ト云ハ用アリテワ哭セヌト云キ也、在_レヲ重テ何
ヲ哭スルゾ問呈ニ、丈ワ大師(26ウ)ニ鼻ヲツヨク捏
レテ痛サガヤマヌゾト扭捏下_レテノ痛ヲ知タルカドヲソ
ツト響カス也、童子ワ未_レ心得_レシテ因_レ什麼不_レ喫ゾト
問呈ニ、丈ノ汝_ニ問_レ和尚_ニ馬祖_ニユヅル呈ニ、祖ノ伊
会セリ、汝問丈ニトハヒ子ラレテ又問_レ丈、乃チ呵々
大笑スル呈ニ、童子又問サキニワ_ニ令_レワ哭_ス何トシタ
ゾ、丈云、適來_ハ笑_シ令_レハ笑也ト云、意ワ哭シタニモ笑
タニモ用ワナシ、隙_ハアイタゾ、笑イタケレバ笑_ヒ哭
シタケレバ哭セウズ迄テ、總シテ用_ハ無_シ、童子ニツ

レテ云タル迄也、畢竟ワ扭捏下ノ省悟肝要ト見ベキ也、拶、百丈適来哭、今大笑、此意作麼生道、代、若無^シバ閑事掛心頭、便是人間好時節、心ワ隙^{ヒマ}打明テ心ニカタルコトワナキ呈ニ、哭トモ笑ズイ也、又、心頭無事ハ生涯^{ガイ}ハ是モ此隙^{ヒマ}ダニアイツレバ心ニサワル物ナキ呈ニ、一生涯ワ広也、又、自由自在伊カ三昧、次ノ日馬祖陞堂スレバ一言モ説サルニ百丈捲席ハキツト見テ取^リ口急ト聞テ取ルト云(27オ)心也、昨日省悟テ肝要ワ心得了呈ニ、ヤガテ見聞スル也、早用ハアラハヤ巻席セイデハ馬祖モ是迄ナ呈ニ、便チ下座スル也、拶、百丈捲席如何、代、直得梁王怒^ニ眼睛、此心ワ王ハ怒眼ヲ見処テ腹中ニハラノ立事ワヤガテ見也、サテ杜急度見テ取ト云也、見之不取^一逢、又、一見便見ノ理也、又、物見主^一一豎、是モ主人ノ眼ノ立ヤウデ威勢ワヤガテ見ル也、急度看取ト云心也、馬祖下坐ノ後チ婦方丈スレバ丈モ後ニ随テ入^レ方丈、祖云、一言モ不説、為什麼捲席子ト、丈ノ処ヲ猶ヲモ能ク見ル也、丈云、昨日鼻頭ヲ扭捏セウラレテ痛ガ未休呈ニト云心ワ用処ガ別ニ在テコソト云キ也、在ヲ祖ワ汝昨日向什麼

処留^レ心ト云ハ猶モ丈ノ処ヲサグル也、丈ワ昨日ノ鼻頭今日不痛ト云ワ昨日ノ痛ヲ今日迄テワ何ニガ带走ズ、サテ杜祖モ汝深明此事ト即可スル呈ニ、丈モ作^レ礼而退也(27ウ)、

(79) ○百丈再^{馬祖ニ}參侍立次、祖目^ニ視^{シテ}禪床角ノ之^ニ扠子^ヲ取^ル、丈即^ニスルカ此^ノ用^ニ離^{スルカ}此用^ニ、

即ト云ワ未杖扠^ニ心ガ在ルヨト云心也、有ヲ祖ノ汝向後開^{ニテ}兩片皮何ヲ以テカ為^レ人ト百丈ノ処ヲ勘弁スレバ丈扠子ヲ豎起シタルワ人ノ為ニスベクワ拈杖豎扠テナウテワト云キ也、祖ノ即此用離此用カト云ハ丈ハ是ヲ本ニスルカセヌカウ見也、丈以扠子掛旧処タルワ用タクハ何時モ用ヘキ也、処テ祖振威一喝シタルキワ其ノ耳ヲツブセト一喝スル也、丈三日耳聾モ前ノ一々ノ理ヲ一向ニツブス也、三日耳聾ワ三世共ニツブスト云方モアリ、總シテ禪道仏法ノカドワ一点モナクツブスト可^レ見、百丈耳聾ノ石如何、代、囊無繫^レ樣糸、是モ前々物ヲ取捨ル也、無一物ノ行李也、

(80) ○古徳僧問、如何是和上家風、徳云、満目ノ青山覆白雲(28才)、拶、答話ノ意旨如何、代、月似彎弓、小雨多風、

此心ワ正月三日ノ夜ノコト也、月ノハリ弓ニ似タル年ワ雨少ク風シゲク吹テ世界豊年也、畢竟ノ心ワハリ弓ニ似テ年ヲエタカナヲセウト不レ思世界之五穀カ月ノ弓ヲハル呈ニ、五穀豊穰ナラントハ不思也、不エ不斗道理也、五家向上人也、合スル理也、天然ト見ハ悪キ也、

(81) ○今朝為ニ先師為宗和尚設ク齋ヲ、若シ道ハ、来テ受ケルト供マ、先師身不レ一、着道ハ、不レ来ラ先師身不レ二、畢竟如何カ得レ受ケルコトヲ供マ、代、庭前菜昌生苜蓿、屋後大根鼻生爪、(本則の頭注に朱書きで「龍文開山竹居二代在山三代機志四代為宗五代金岡因事退院」とあり)此意ワ此ノ本心本性無形法界ニ遍満スル物也、無欠無余ナル呈ニ事ゴトニモ有ルゾト道理也、サテ杜種ヲマカヌ者カ生スレバトコニモ有心也、箇時常住無レ去来ガ生スレバトコニモ有心也、箇時常住無レ去来不レ断也

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

(28ウ)、種^{麻之}得^レ粟ト云モ何ニモ在ゾト云理也、サテ杜不種モノガ生ル也、

(82) ○古徳云、是句モ也莉非句モ亦莉、拶、是非不到処如何道、代、狗舐熱油鑊、

此心ワ十分ニカウデソウト云モ早ヤ意識也、況ヤ非句ヲバケツライデワ正当ニ於テワ分ツ心ワ在マジキ也、呈ニ狗ノセンジ油ヲジツト子ムル処テ味イワ在ル、マツ其ノ頭々ヲ響ス心也、何モ端的ニ到テノブル言ワ在ルマジキ也、言ヲ以テノブルワ皆已後也、畢竟前後際断ノ時節也、

(83) ○疎山僧ニ問、曾到ニ雪峰ニ麼、云、到、山云、我已前ニ到時箇事不足今足不足タリ、山云、粥足(29才)飯足、拶、疎山意作麼生、代、百花春富貴、万物酒風流、

此心ワ我家デ不足ト云ワ如何ナル仏法在テモ世法ナケレバ不レ足、元ヨリ世法満テモ仏法ナケレバ不レ足也、仏法世法共ニ足ルト云呈ニ、サテワ粥モ飯モ足ヘキゾ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

ト云ワ我宗満足ト云理也、万物酒風流ト云ワ色色ノサ
カナモアリ見事モソロエタル時コソ酒ノ風流ワ殊ニ面
白ケレ、満足ノ心也、極位也、疎山始テ雪峰エ到時ハ
一千五百人ノ衆ヲアツメテ二六時仏法ノ理迄テ世法ワ
ナキ呈ニ不足ト云也、今足ト云ワ仏法世法相応スル
也、サテ杜粥足飯足ト云也、下卷別ニ代也(29ウ)、

(84) ○華嚴經云、以果為先、以因為後、仏意ハ且置、祖師

門下果前因後底道理作麼生、代、一声羌笛離亭晚、
君向瀟湘我向秦、

心ワ何方ヘ行タル路ワ遠ゾト云意也、元來ヲ看ルニ東
西南北ナシ、本意ヲ心得レバドチヘ行タモ同事也、本
心ニ至レバ因モナク果モナシ、依レ因依レ果トハ世間相
也、本心ヲヨク見レバ因ヲ後果ヲ先ト云タモ因前果後
ト云タル同コト也、仏モ如是也、

(85) ○古德僧問、如何是清淨伽藍、師云、是ノ牛欄、拶、

為什麼牛欄是清淨、代、濁中清々中濁、
是ワ凡ヲ捨テ聖ニ入聖ヲ捨テ本ノ凡夫ニ成リキツテコ

ソニコル也、清キトモ心得ル也、迷ノ眼ハ濁ワ凡清ハ
聖ト斗リ心得ル呈ニ、転レ凡聖ノ処ガ清シテヨイゾト
留ルヲ捨テ了テ迷ニ歸テ看レバ清中ガ濁(30オ)濁中
清ト全クニツナシ、煩惱即菩提、生死即涅槃ト云モ此
時也、

(86) ○仰山寂禪師問僧、汝會什麼、僧云、會、師提起扠子

云、這箇六十四卦中阿那卦取、僧無對、師自代云、

適來是雷天壯、如今變為レ地大明夷、拶、易道底ハ
置ク、祖師門下明德是什麼事、代、星隕雨焉見則石、

此ノ心ワ光氣光彰モ無キゾト云心也、大壯之卦ワ雷之
出時光リワタツテギヤウクシケレ共ナリヤメバ光モ
ナクヒツソトスル也、衲僧ノ扠ヲ立杖ヲ拈スル時キワ
コトククヒツソトスル也、夷ノ字ヲバヤブルトヨム
也、明ガヤフルバマツ黒ラ也、如是イモナクナル処ガ
我家ノ極位向上也、六十四卦モ離ノ卦ノ光氣ヨリ出テ
尽ク取レバ離ノサタワナシ、卦盤打失ノ処ガ卦ノ極位
也、着語云、金毛獅子變作レ狗、是モ獅子ノ時ハ威勢
(30ウ)ガ在テ百獸ヲシタガエレ共變シテ狗トナレバ

サラニ威モナクナル也、衲僧モ其威勢ヲ捨テ一向ノ沙弥ニ成ル処方向上也、

(87) ○古徳云、一念瞥起、々々是病、不統是業、撻、一念不起時於祖師門下明得箇什麼辺事、代、雲門云、扇子踣跳上三十三天築着帝釈鼻孔、東海鯉魚打一棒兩似傾盆、

此ノ心ワ妄念ダニ続ガサレバヤガテ業也、此ノ念ヲヒシト収レバ居ナガラトコエモ通スル也、

(88) ○古徳云、閉ニ却スル関門ノ時有リ出身ノ路、是レ衲僧尋常ノ事、不レ立レ関ヲ透ニ出スル鉄門ノ処作麼生、代、没ニ艱難ノ処立ニ艱難ノヲ、

此ノ心ワイナレカル鉄関デモ在レ有ル関ヲバ誰レモ透也、ナイ関ヲバ(31オ)何ト透ルヘキゾ、千仏万祖モナイ関ヲバ何ト透ルヘキゾ、透難也、去テコソ艱難ナキ処ガ透レヌ関也、呈ニ艱難ヲ立スト云也、趙州勘破ノスチメ也、

(89) ○丹霞路逢老人問云、公住何処、老人云、上是天下是地、師云、忽逢ハ、天地崩裂シ地陥ル時ニ又作麼生、老人無对、撻、代老人作麼生道、代、月移リ星シ運外ハコソ辺ノ事、一道ノ神光万境閑、

此ノ心ワ天地ニツレテ移ハ万境ニ転セラル、妄心也、本心ニ安住シスマシテ居レバ何ト境ハ転変スル共動セサル也、其ノ時ワ天地クツル々共本心ワ不動也、去テコソ月移星ハコソブヨソノ事也、一道神光ガ動カ子バ万境モ自閑也、舟不レ行岸不移トモ代ルベシ、何トキテナレバ舟ノ行ト思イ岸ノ移ト見ルハ我が妄心ノ動也、本心堪然(31ウ)ノ時ワ舟モ不行岸モ不移ナリ、只安住ノ心ガ肝要也、

(90) ○葉山告李翱云、欲保任此事須高々山頂立、直向深々海底行、闔閣中物捨不得ナラハハナス為ニ漏ト、撻、闔閣中ノ物捨テ了テ如何ガ行李セン、代、漢地不収秦不管、又、騎ニ馱兒ニ下ニ揚州ニ、又、於テ本尊大衆ノ中ニ仰臥横眼ニシテテ而開ニ使テ團扇ヲ云ク、嗚呼活計ナル哉々々々、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

(91) ○古徳云、三世諸仏向火焰裏轉大法輪、擗、作麼生是

火焰裏輪(マヤ)大法輪、代、芍葉華開一頭、

箇ノ心ワ三世ノ諸仏ノ火焰ト指ワ心ヲサシテ云也、大法輪転ト云ワ心ヲ以テ人ヲ転スルヲ云也、何トハタラカスモ心ノワザトシルナリ、

(92) ○古徳云、於宗門中有活底祖師、擗、作麼生是活底祖

師、代、皓老布裨赫赤(32才)、

是ワ仏祖ヲ眼ニカケズ、諸人ノ目ヲモハバカラズ、サウジテ法度ニカタワラヌコソ活祖ヨト云心ナリ、

(93) ○古徳云、既知去処、擗、作麼生是六祖去処、代、起

テ而向ニテ空中ニ打シ一円相ヲ去ル、

是ワ本来何トナキ処也、一円空ヨリ出デ空ニ帰也、

(94) ○古徳云、犬ヌ見レハ即咬、鷄リ見テハ即鬪、擗、殿

上ノ鷄トヒ為メカ什麼ニ不ル相ヒ鬪カハ、代、頭角生、

此心ワ一点モ未レ下異人也、去テコソ道着ハ頭角生牛ノ類也、此異ハ一向不レ下、法身無相ノ処ヲ異人ト云

也、下ハ皆類也、

(95) ○古徳云、倒地者因地起、擗、呼什麼為地、代、湘潭

雲尽処一辺、

是レワ心ト不レ云シテ心ヲス也、雲尽処トハ心空ノ処ヲ響ス也、起モ(32ウ)倒モ此心内ニハツルタ処ナシ、畢竟心ヨリ出デ心ニ収也、行住坐臥皆心ノ事也、

(96) ○維摩經云、菩薩行レ非道、通達仏道、作麼生是非道理、

代、平生疎逸無一遊、

出家ノ上テ仏祖ニハ不レ拘シテ酒家ニ行キ傾城ノ居処エ行ワ非道ナレ共、少シモ知見解会ガアツテコソ何ガセラレウスゾ、便仏道通也、大向上也、

(97) ○雲居膺禪師云、如ニク人ノ頭々上ニシ物々上ニ通一スルカ

只タ喚ンテ作ニヤ了事ノ人ト、終ニ不三喚テ作ニ尊貴ノ一

路ト、擗、作麼生是尊貴一路、代、月裡姮娥不画眉、箇ノ心ハ手ヲツケヌト云リ也、其故ハ眉ヲ画ワハヤ手ヲ付ル心也、其偈ノ処コソ下ラヌ処ナル呈ニ、自尊貴

ノ一路也、物々上_二了_一(33才) 頭々上_二了_一スルワ早ヤ彫
琢スルカタチ也、

(98) ○南泉示衆云、馬大師云、即心即仏ト、王老師ハ不恡

麼、不是心不是仏不是物、拶、南泉心如何、代、憶

七得_二ヲ_一俱_二厭_一ノ一指頭、

箇ノ心ワスキモナキゾト云リ也、其故ハ此情ワ法界ニ
遍満スル呈ニ、毫髮呈モスキワナシ、此時即心即仏ト
云モ早ヤ二ト成呈ニスキト見テ南泉ハ不是心不_一物
ト云キワ仏トモ心トモ物トモ云ワスキゾト云心也、俱
厭ノ何ト問モ一指ヲ拳シタワ何ニトモ云ワスキ也、指
頭ニモ更ニ用ハ無シ、只立タル迄也、

(99) ○二祖法付三祖云、汝已如是、第一不得容易出世、

拶、三祖已大事了畢、二祖為什麼恁麼道、代、我王

庫裡無如是刀(33ウ)、

此ノ心ワ不_レ計シテ取ル心也、其故ハ王ノ庫ノ御劍ト
云ヘハ庫ノ裡ガアサマニナルサヤウノ劍ハナイゾト云
ヘバ此劍ガ他ノ物ニナル呈ニ如是劍ワ御クラニワナケレ

『慈雲開山金剛和尙代語』翻刻(上)(龍谷)

トモ你持来志シナル呈ニ買ソウトテ取ムル也、畢竟ワ
宗旨ノ手立テ也、十分ニヨイ処ヲモ早クユルサヌガワ
ク意也、

(100) ○古徳云、終日喫飯不喫一粒米、終日着衣不着一片

衣、拶、既是著衣喫飯為什麼恁麼道、代、不知地擎

山、々孤峻不知、石含玉無_レ瑕、

此ノ心ワ一向ニ会ノ無キ裡也、其故ワ、地高シテ高山
トナレトモ山ヲ高セウト不_レ思、山モ地ニサ々ゲラ
ル_レト不_レ知、此時更ニ解会ハナシ、何ト喫シテモ味
ノ会ガ無ケレバ不_レ喫也、石ノ玉ヲ含_レダモ如是見
ヨ、衣ヲ著テ不_レ著ルト云理モ此ノリデ可見也(34才)、

(101) ○古徳云、一夏以来、不_レ投_二得_一胡孫子ヲ、須_{シク}ヘ_三我_レニ

還_二獎_一水錢ヲ、拶、諸人作麼生投得胡孫子ヲ処、代、

内心不生外境不起、又、銅砂羅_一由、又、拍手

呵々大笑、

此心ワ胡孫子トハ心猿也、心猿ワ妄心也、妄心ダニ生
ゼザレバ万境ハ在_レ共ヲサス、畢竟ハ心不動処ガ肝要

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

也、銅一由トハ一点モソバ目ヲシテワサテ也、此時心猿ヲヨク収ル也、拍手一一笑ソ、心猿ヲヨク収ルワ本心当著スル時節快活ノ笑也、

(102) ○當時^{ソノトキ}童女八歳ニシテ^{ソノ}仏ヶ投^{ナゲ}テ記^シマ、山僧七十余、為^ニマカ

什麼^ト不得^ズ記成^ル仏ナル、代、雲在嶺頭閑不徹、水岩下流大忙生、(本則の頭注に朱書きで「金岡禪師ハ七十八歳、十一月十五日上山不見」とあり)

此ノ心ワキレメワ無イゾト云リ也、其故ハ雲ハドノ嶺ニ在ル留テハナキ物ノ也、去テコソ閑不徹ト云ワ何ツモイソガワシク去来スル(34ウ)物也、水モドノ谷エモ流ヨ留メテワナキ物也、去テコソ大忙生ト云ハイソガワシクキレメナイゾ、此心ワ悟ニヨク徹シツレバ悟ノサタワナキ呈ニ本ノ凡夫也、更ニキレ目ワナシ、キレ目ナケレバ成仏ノサタワナシ、童女ハ始テ悟ニ入呈ニ仏モ成仏ゾ授記スル也、是ハキレ目アルコト也、祖師門下デワ始終キレメモナキ処コソ徹底ノ処ナレ、迷悟ノサカイノ在ルワ初心ナコト也、カウ云トテ一向ニ迷テ透ルガヨキデハ在ルマジイゾ、

(103) ○蓮華色比丘尼越^レテ大僧ヲ見^レユ仏ミ、々呵云、汝雖^シ

見^ト吾^カ色身ヲ、不見吾法身、須菩提岩中安坐見吾法身、撈、代^テ蓮華色^ニ作麼生道、代、庖丁不見全牛、此ノ心ワ須菩提ノ岩中ニ閉籠テ一向色像ニ対セラレヌ呈ニ自ラ真空斗ヲ視スル呈ニ法身相見スル也、庖丁ガ時モ牛ヲ庖丁スル事十年ナル呈ニ、後ハ牛ヲ見処テ其俛一刀二刀ト(35オ)意テヲロス呈ニ、終ニ毛ヲモ肉ヲモヤムラ子共其俛空クスル呈ニ当体即空ト同事也、祖師門下ノヤウハスルト也、

(104) ○古徳云、功成名遂身退天之道也、撈、功成名遂底時

節作麼生道、代、馬蹄花山陽、牛放桃林之野、此ノ意ハ功成名遂トハ我家ノ大事明メ了テ後何ヲモ取置呈ニ功ハ早ヤ入ラヌ也、汗馬ノ功モ入ラヌ呈ニ本ノヨリ処エカエス可キ処也、本ノ迷ニ帰ガ功成名遂ヤウ也、

(105) ○経云、吾眼不具仏性、撈、既是仏眼為什麼不見仏性、代、西天胡子無鬚、

此意ヲ西天エビスワトレモ大鬚ナル呈ニ中々ニ鬚ノサ
タワナキ也、何レモソレノミノ時ハハヤ其ノサタワナ
キ也、五眼ワ仏ノ眼テ有呈^(35ウ)別ニ仏性ヲ見ト
云サタワ在ルマジキ也、又黄金不銕黄金像、是モ全身
其ノ者デハ其形ヲバ何ト語ルヘキゾ、別ナル金トモモ
ツテコソ、イヘケレイラレマジキ也、仏眼デ仏性ヲバ
見難イゾト云リ也、

(106) ○古徳云、指鹿為^レ馬、東土為金、是什麼人行履、
代、猛虎不^レ食^三死肉^一、

此心ワ何ニテモアレ肉^レ死ヲバ生シテ眼^{イカ}スル也、総シ
テ死肉ヲバ食ハヌ也、虎ノ面目也、衲僧ワ喚火為^レ水、
取^レ土為金、喚鹿為馬カ面目也、仏法ノ妙理也、又、
如馬鼻如虎欽、是モソレタ々ノ銘ヲヲノレト露ル也、
馬ハヨメヲ以テヤミニモアルクガ馬ノ銘也、ヲノレト
以テ出ル也、仏法ノ妙理ワアラワソウトセ子トモヲノ
レトアラワル々也、仏法ノ銘也(36オ)、

(107) ○永嘉大師云、從前^{本書ニ作來} 蹭蹬覺虛行、多年拄為風塵

『慈雲開山金剛和尙代語』翻刻(上)(龍谷)

客、擗、即今大師為什麼恁麼道、代、拈拄杖一卓、
靠^{ニテ}左邊^ニ起居、

此心ワ体^体スルト云心也、主丈ヲツキ立テタルワ木也、
從前蹭蹬トハ足シドモナクアルガ虚リニ行也、衲僧ノ
為^レ人泥土^ニ下ガ足シ本トモ無ク虚リ也、風塵ノ客ト
云モ只ドコトモナク足ニマカセテソコノ^ニテ為人ス
ル也、白ヲスルガ客路也、ドレモ本分ノ地デハナキ
ゾ、其レヲ虚リニ行イタルヨト覺エ客路^ニ行ハ拄デカ
ルクゾト知也、為^レ人スル処ヲバ早クタチノキテ一向
ニ休スル也、禪トモ道トモ仏トモ其ノサタヲバ取置
也、向上也、

(108) ○仏勅沙門、令九旬禁足、擗、文殊為什麼^三三处渡夏、

各請一点語、代、竜雲從分虎風從(37ウ)、
此意ワトコニモ在ルゾト云理也、其故ワ竜ガ行ケバト
コデモ雲ワ起リ虎ガ行ケバトコニモ風ガ生ルト云心
也、文殊ノ時ワ大人ノ相ナル呈^ニトコニモ蔵ル処ナ
シ、其時三处^ニアレ共足ワハタラカス移サ子バイツモ
禁足也、足ヲ移ス物ニハ九旬禁足サスル也、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

(109) ○解夏日、令^シシム^テニ布袋頭^ヲ開^カ、明朝自由自在^ニ去、

擗、東西^シ去^リ即^チ是^レ南北^ニ去^ル、代、酒肆淫妨^一

遊、取、一声羌笛離亭脫、君向瀟湘我向秦、

布袋頭トワ九旬一步モハタラカサヌ処也、夏了テ自由

自在ノ時^{イチクラ}肆^トテキラワズ、淫妨トテモイマズ、其境

ニ在テ其境ニ不墮行李也、又、一声^一瀟^一へ行^タモ向^レ

秦モ路ワカワラヌゾ、向上ノ一路ニ本東西南北カ在テ

コソ、只本分一路迄ヨ、

(110) ○趙州云、把定乾坤眼、綿々不漏糸毫、作麼生是(37

オ) 乾坤眼、代、紙然無油、

此ノ意ワ照モナキゾト云心也、紙燭ト云キワ本分ノ眼

也、本分ノ眼ニワ光ナキ呈^ニ糸毫モ漏ラサズト云也、

光ヲモラサスワ人間ノ眼也、又、恰如瞎一般云ワ妄人

目也、真眼ワ照ナシサイギル物ナシ、サイギラサレバ

自把定乾坤也、

(111) ○經云、唯独自明了余人所不見、作麼生明了底事、

代、鴛鴦帳裡懶擡頭、你若無心我亦休、又、家童為

問^一秋、

此心ワ我レバカリ知^テ人ワ不知ゾト云心也、美人ノ帳

ノ辺リニテクトケ共取逢ヌ呈^ニ休スベシト云ワ家童カ

何事ヲ被仰ソウゾト問呈^ニ、心ヲバ語ルベキゾナ呈^ニ

□ヲテラス月ヨト、ヤガテ月ニ付与スル也、人ニ当リ

ハノ当位ヲバ何ニト可^レ語ゾ、語ラ子バ余人ノ(37ウ)

不見ヨ、誠ニ深意ノ処ハ是也、

(112) ○古德云、金屑雖貴、落眼成翳、擗、金屑去^リ了^テ後^チ

如何、代、如愚如魯、

心ワ愚ニナリ帰ル処ニ仏法ノサタハ在マジキ也、仏法

辺ハ皆ナ金屑ヨ、取、茶裡飯裡不向別処ニト云ワ茶ノ

時^茶釜片飯ノ時飯一片ヨ、若シ別ニ眼ガ在ラバ眼ノ翳也、

(113) ○岩頭問徑山、如何是真言、山云、南無仏陀耶、頭

肯^レ之、擗、徑山答話意旨如何、代、唵蘇魯悉唎、

心ワ更ニ理ニ不落心也、理非ニ落ルワ真言ニアラズ、皆

化説也、実ノ説ト云ワ無説也、無聞是方真聞也、サテ

コソウケガウ也、サウジテ仏説ワ何モノ理ヲ付ヌ処

也、理ヲツクルワ応化説也、其ヲ何カト云ハ以後翻訳シテコトウル(38オ)也、非レ真語、我家ノ法身也、真説ト云ハ無説無聞也、

(114) ○王常侍問洞山、五十二位内為什麼不説妙覺菩薩^ヒ、

拶、洞山作麼生道、代、已勝前朝断舌戈、

此心ワ当位ヲバ犯サヌガヨイゾト云心也、賀刺^ハ剎舌出血戒以慎口、是モ以レ言ヲカズニ依ツテコロサル、畢竟ノ心ワ只能不犯当今諱也、勝前朝断舌戈、妙覺地菩薩ワ五十二位ノ最上ノ菩薩也、故不レ説波名意ハ当頭ヲバ不犯カヨキト云リ也、曹洞ノ宗旨ノ面目也、

(115) ○石霜僧問、如何是枯木竜吟、師云、猶帶喜在、又

問、如何是鬮體裡眼睛、師云、猶帶識在、拶、石霜意如何、代、以坐具置頭上、又、以团扇置其上起去、

此意ワマダ上方在ルゾ云心也、是ワ大事ノ(38ウ) 参話也、可参々々、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

(116) ○灌溪示衆云、奚仲閉門造車一百輻、出門合轍、如何是末後一轍、衆無对、拶、諸人作麼生道、代、頭落也不識、

奚仲造車トワ人々為此事自己ヨリ目前々々ヨリ自己ヨリ知不到々々々ヨリ到那邊ニト、イカ呈カ造テワ破々テハ造テ走、両頭ヲ拈却軸ヲ去却シテ何一明得タルト云ヘハ急度良久シテ両手展テ直上見テ居也、師云、其心ヲ展ヨ、云、四大分離ノ時節何事ヲカ明ン、何事ヲカ展サウス、師云、其コニ当テ句ヲ、僧云、因、師云、クヒノホツカト落時節子テ心得テハ頭一不識ト云モ向ヨ、

(117) ○雲門十八年、喚遠侍者、雲門意如何道、代(39オ)、

酒ハ逢テ知己ニ飲ミ、詩ハ向テ詩人ニ吟ス、

此意ワ何ツレモソバニ召シ使侍者ヲアケテモ暮レテモ喚ダ心ワ喚底ノ主人ヲ識得セシメンガ為也、主人ニ当著スル也、知音ニ逢也、代モ其ノ用処也、イカナル好酒ナレ共真実ノ知音ニ逢テ吞バコソ入興モアレ、イカニ好詩モ聞キシル人ニ逢テコソ、詩ノアチワイハシラ

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

ルレ、雲門ノ心ハ深々ノ恩也、サテコソ真実ノ主人ニ
当著ノ後ワ喚ハヌ也、香林遠侍者モ雲門ノ弟子也、

(118) ○古徳云、指鹿為馬、束土為金、是什麼人行履、代、

紅稻啄一風枝(朱書きで「紅稻啄余鸚鵡顰、碧梧桐
荒鳳風枝」とあり)、

此ノ心ワ我假ゾト云リ也、稻ワ啄残シテアレ共ア□
□ノ物クイ度ワ何時モクウベキ裡ニ畢竟古徳ノ心ワ本
(39ウ)性ヲ一度ヨク性デ見レバ何ト名タレ共性ハ不
代、鹿ト喚バ鹿也、馬ト喚バ馬也、土トモ金ト云モ性
ワ代ヌ也、其時何ト呼名ケベキトモ我假也、

(119) ○古徳云、炎天如^ク火暑雨似^レ陽^ニ、正当此時如何廻

避、代、見^ニ自家^ヲ無^レ分、
是ワ我忘他忘時節也、此ノ事当著端的也、我モ知子バ
火ヲモアツシト不知、陽ヲモアツシト不知境也、

(120) ○古徳一日以拄杖打^テ一僧ノ頭^ヘ云ク、汝若言痛是凡
夫、若言不痛是木石、拶、作麼生道、代、小出大

遇、

是ワドチエモ落ヌ也、小出トハソツト出ル、大遇ハ大
事ニ逢ト云心也、ソツト出シテ大事ニ逢ト云ワ思モヨ
ラヌ処テハタト此事ニ当著^ニノ時節^ヲ云也、当位ノ句
也、当ル当位ワ前ニモ後ニモ落ヌ境也(40オ)、痛ト
モ不痛、覺ルワ以後也、此ノ門トヲ見セシメンガ為
也、

(121) ○古徳云、夫子不識字、達磨禪不会、拶、為什麼恁麼

道、代、只許老胡知、不許老胡会、
是ワ解会ヲ嫌ウ心也、孔子モ字ヲ知ルコトハ知ライデ
ハ文字ノ会ヲナサバ夫子デハナキノ、達磨モ禪ヲバ心
得デハカナワス禪ノ会ヲナサバ達磨デハナキノ、夫子
モ字ノ会ガナケレバ不知也、達磨モ禪ノ会ガナケレバ
不会ト同事也、

(122) ○古徳僧問、古人有^{アラユル}諸^レ皆^チ不^レ背^カ令^下請^ニ和尙^一

入^ラ井^ニ、拶、代、古徳ニ作麼生^カ道、代、鴈無^ク遺蹤^一
ノ思^ヒ、水^ニ無^シ沈影^ノ意^一、

心ワ^心ガ天ヲ飛ニ影ヲ移ウト不思、アレ共水ニ移ル水モ移スヘキトハ思ハ子共移也、古徳ナラバ井中エ入コトモカウダニ入ワ(40ウ)水ニ入トモヲホレマジキ也、

(123) ○古徳云、孤峰不^レ恋^ハ旧時ノ巢ヲ、猛將豈^ニ在^ニテ家中^ニ死^ヒシ、二祖為^レ什麼統達磨法、代、童子帶^龍鱗、虎兒帶^虎斑、

是ワ常ノ続ギ羊ナレトモ二祖ノツギ羊ワ衲僧見裡ヲ引エテ常ノ如ク続ガ真ノ孝子也、常ヲカユルワ僧眼也、夫レワ初心也、

(124) ○昔有一比丘、閑林坐禪、忽然一猪子来、僧拈斧斫、則斫^ニ我^カ勝^ニ、擗、未審是何^レ辺道理、代、当^ニ処^ニ出生^ス、
シ^ニ当^ニ処^ニ滅^ス尽^ス、

此僧ノ忘意ニ依^テ猪忽^チ来^ル真実ノアルコトナシ、勝^トト見ルハ猪ハ滅^ニ尽^ニ誠^ニ滅^セス、一切唯一心造也、取句、客盃ノ弓影元是非蛇、是モ客ガ人ノ処エ行テ酒ヲ飲ム時上ニヲイタル(41オ)フシマキノ弓ノ影ガ盃ノ

『慈雲開山金剛和尙代語』翻刻(上)(龍谷)

中へ移ヲ蛇ヨト見帰テヤム也、アル人ガ弓影ゾト云ヘバヤガテ病イナナル也、蛇ヨト見レバ弓影モ蛇ニナル、弓カゲト見レバ蛇ハ去テ病イナナル、是唯也、

(125) ○古徳云、衲僧家第一莫^レ登^ニコト機境^ニ、擗、仏^ハ是^レ機境、法^ハ是^レ機境、諸人作麼生行李、代、昨日^ハ種^ニ茄子^ヲ、今日^ハ種^ニ冬瓜^ヲ、

是ワ一向ニ仏法禪道ノ衲僧家ヲ打捨テ凡夫ニ成リキツタル時ハ菜菌ツクル入道迄也、此時機境ト云サタナシ、

(126) ○古徳示衆云、日月不到、有^レ人相^ト逢^フ、還^テ認^ニ得^スヤ面目^ヲ也^ト無^ヤ、擗、諸人作麼生^カ認^得ス、代、半夜^ハ烏鷄帶^レ雪^ヲ飛^フ、

此心ワ半夜ハ是暗、烏ハ是黒、雪是白、是明也、黒暗ガ好ク明(41ウ)スト云理也、洞上ノ宗旨ワ黒ガ淵底也、カウミレバ我家ヲバ黒暗ガ好ク明ス用処ニ明ト白ト云也、又、黒花猫兒面門斑、是ハ明ノ用処也、黒猫ハ暗ノ用処也、黒ガ好ク明スト云意也、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

(127) ○古徳云、透脱此事万法尽平沈、搵、万法平沈道理作
麼生道、代、一塵纒起、大地全取、

一塵トハ法塵也、法塵トワ此一法ヲ明レバ大地ノ万法
自ラ取ル也、取トハ万法ワ立ヌ也、其俛アレ共煩イニ
ナラヌ呈ニ平沈也、

(128) ○南泉示衆云、王老師壳身去、有僧出云、某甲買、

師云、不作賣不作賤、作麼生買、僧無語、搵、則今
向南泉諸人作麼生道、代、山僧向南泉道、來年為和
尚作一領布衫、

南泉ノ貴賤ニヲトサス買ヘト云処デ是非ヲ付ヌガヨク
此正当ニ叶(42才)也、去テコソ無語デ此僧ガ南泉ヲ
バ買イトル呈ニ今年ハ人ノ下部ト成呈ニ此僧モヨク扶
持ヲ取ラセテ可レ過呈ニ來年隙マ明明テ持レ扶モ不得シ
テ可被居時一衣ノキル物ナリトモ調エマラベキト也、

(129) ○古徳云、衲僧家大都有婦家得力処、搵、作麼生是婦
家得力処、代、昨夜雨霽霽、打倒蒲萄棚、知事普請
行人レ者力撐底拄々々撐拄々々到天明、依旧可恰生、

衲僧家テ婦家ト云フ本凡夫ニ成リ婦ル処也、仏法ノ
キリヨクモ一向ナキ処也、此在処婦テノチカラヲ得テ
ト云ハアレハツレ牆キ壁トモヲトリツクラウヨリ外ノ
コトハナシ、蒲トウノ棚ヲ昨夜ノ大雨ニタタキヲトス
呈ニ猶スヘキ物モナサニ人チガラヲ借テトリ立テヨク
ヨリ外ノコトハナシ、キレイナル行李也、真実向上也
(42ウ)、

(130) ○世尊一日与大衆行次、指面前地云、此処宜建梵刹、

帝釈把一莖草挿於地上云、梵刹既建畢、世尊微笑、
搵、呼三那処ニ為梵刹、代、隨処作主立処皆新、

世尊梵刹ヲ立ヨト被仰心モ立シ畢ヲ見シガ為也、帝釈
其ノ機ヲ見テコソ、草ヲ指スヲ梵刹ナルト云タルワ仏
意ダニ立スレバ則伽藍成就也、家造夕斗ガ伽藍デハナ
キゾト持也、去テコソ微笑セラレタルワカウ心得ル物
アリヤウ也、

(131) ○古徳云、我未出家時、被レ便ハ菩提ニ、出家シ了テ後チ
使フ菩提ヲ、搵、使菩提底道理作麼生道、代、長連

床上伸兩脚、

此心ワ菩提ハ到彼岸也、彼岸ハ悟処也、凡夫ノ時ワ是ヲ如何々々トナゲク呈ニ菩提ニ使ハヘル悟ヲ得レバ出家也、此時ハ菩提ワ吾侶也、悟ヲ得ザレバ出家セザルト同也、長連床上トハ僧堂ノ(43オ)床也、坐禪修行ヲモツハラトスル床上ニ兩脚ヲフミ展テ子ル呈ノ者ニ悟ノサタワナシ、畢竟行李也、入句、逢茶喫ー飯、菩提ヲ心ニトムル時ハ茶飯ヲモ心安ワ喫セス、悟ノキヲ尽シハテヌレバ茶飯ノ味ヲ本ノ味也、

(132) ○昔有一僧、持鉢到長者家、偶為犬傷、長者問、竜披

一縷、兔金翅難、大師全救法眼、為什麼被犬傷、
撈、僧作麼生道、代、寮有頭債有主、

是ワアタニ有レ頭ト云ワアタモ初ノヲコリガアリテアタヲバナスゾ、債ニ有主トハヲイ物ニハ必主ガ有ルゾト云心也、此僧ノ人コソ多ケレ共、犬ニ破ラルハ前世ノ罪ヲ爰デハタス也、人ノ物ヲヲイタル物ワイツ世ニ成リテモ返弁セイデハセムマジキ也、如何ナル仏祖禪知識ノ上デモ宿業ヲバハタサデハカナワヌ也、是

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

ガ正直ノ理也(43ウ)、

(133) ○古徳云、騎虎頭取虎尾、撈、虎頭虎尾ハ且置、中間

底事作麼生道、代、憤莫觸着々々火星飛、
ト云ワ若モ一点モフレバ当頭ノ中デハナキゾ、ハヤ前後ニ落也、去テコソ触レバ火花ガ飛ゾト云ワフレテワサテゾト云心也、虎ワタケシトモ頭ヲシンタイセバ尾ヲモハタラカスマジキ也、前後ニ落チヌ処コソ中ナレ、

(134) ○開山忌時云、先師平生呵仏罵祖、今日為什麼為先師

誦經呪、代、為ニ後人ノ作ル勝様ト、臨濟裁レ松、時ノ人問為誰裁レ松、濟云、一作山門境致、一為後人作標榜、(本則の頭注に朱書きで「先師ト指スカラハ為宗和尚ヲ請シテ桂山開山トスル乎」とあり)

ト云意ワ、必ス其ノ為ニテモナシ、只シワザ無ケレバ松ナリ共、銭迄也、人ガ問エバ羊アリ走ニ云イナス也、此用処ハ経呪モ為先師ニハ入ラン事ナレ共別ニナスベキコトナキ呈ニ誦ム迄也、真向上ノ行李也、呵仏罵祖コトハ宗門ノ作業也、今ワ何ノ作業モナキ行李也

(44オ)

五大ト云、五蘊ヲ六蘊ト云リモ在リ(44ウ)、

(135) ○今朝為先師設齋供養、若シ言ハ、来テ受クルト供知不

レ 応セ^レニ、若シ言ハ、来テ不^レ受ケテ供ヲ智^レ不^レ応セ^レニ、

擗^レ、畢竟如何道、代、庭前栽^{ウユ}ニ 高^{進ヲ類也胡麻} 苜^ヲ、々々生^レ

木瓜ヲ、(本則の頭注に朱書きで「是レ為宗中心和尚ノ

コトナリ」とあり)

此性ワ^ニ不定、其々ニ随テ生也、此ノ仏性ハ何ノ上

ニモ有ル物也、トコニモアツカラヌ不断ノ生也、高ハ

蓮ノ数也、苜ハ胡麻ノ数也、木瓜ハボケノコト也、何

ニトモ名ワカワレ性ワカワルマジキ也、入句、真如不

守自性ヲ、随^レ縁入^ニ語^諸趣^ニ、是モ定相ナキ也、ソコ

くニ随テ生ル也、

(136) ○経云、浄法界身本無出沒、仏為什麼有^ニ誕生^ニ在^ル涅

槃、各請一点語、代、如大五似第六、

隱蘊人ニワ四大五蘊ト云コトコソ在^レ、各五大六蘊ト

云コトハナシ、有^レヲ衲僧ノ眼ヲ以テ見^レバ有^ガナキ物

也、ナクテ亦有^ル物也、此性ハ形有^テコソ此時四大ヲ

(137) ○洞山僧問、和尚統雲岩先師能肯也否、山云、半肯半

不肯、洞山意作麼生、代、一二三四五六七八九、

洞山ノ十分ニ受カウト云ヘキヲ半肯半不肯ト云ハ、我

家デワ十成ヲイムガ面目也、十成ニナレバヤガテカク

ル呈二十分ト云ワズ、代モ九迄テ置也、十成ヲ忌ム

也、

(138) ○古徳云、山禽^含玉則山潤、水蔵^{ストキハ}玉則川媚、衲

僧胸中蔵心殊則得什麼辺事、代、茶裡飯裡不向別

処、

是ハ衲僧未^レ取^ニ心殊^一則茶裡飯ノ味ヲモ不^レ覚、ヨク心

殊取ル則バヒヤタカニ湯ハアツク、茶ノ時ワ茶一片、

飯ノ時ハ飯一辺迄也、別ノ味不知也、是ガ衲僧ノ自在

活計也、

(139) ○瀧山問仰山、妙浄明心你作麼生会、山云、山河大地

日月星辰、瀧山云、如是々々、仰山意作麼生、代、

蕭(45才) 何壳却假銀城、

是ハ蕭何ガ斗事無キ銀城ニヲアルト云テタフラカス如
其妙淨明心トアリヤウニハ云タレ共真実ハナシ、此本
心ワ山河大地日月星辰ニモソナワル物也、アレ共其コ
ニソマ子バ妙淨明心也、別ニ物ガマルくトアルト心
得バ假銀城ヲ真トスル呈ノコトヨ、

(140) ○洞山僧問、三身中那箇身說法、山云、我常於此切、

山遷化後僧問曹山、山云、要頭斫將去、曹山意作麼
生、代、道吾不レサヤ道ハ、打コトハ住レス打ニ道フコトハ則チ
不レ道、

此ノ意ワ漸源侍者之打棺云、生耶死耶、不渡生死処ヲ
バ何ト云ヘキゾナ呈ニ、道吾モ不道々々ト云、於中路
侍者不道打和尚去、吾ハ打事ハ任你道事ハ則不道ト云
心ワ千仏万祖モ此当到何トモ更ニ如何トモ云ワレス、
以後曹山モ更ニ可レ道羊ナキ(45ウ)呈ニ頭ハキリタク
バキレト云ハ道ウコトハ有ルマジキ也、洞山曹山モ真
ノ說法ノ処ハ無言無說ナル呈ニ何ト云ヘキゾ、言說ニ
テ説ハ化仏ノ説デコソアレ、真説ハノブルニ不及也、

『慈雲開山金剛和尚代語』翻刻(上)(龍谷)

(141) ○洞山法身頌云、五台山上雲蒸飯、仏殿階前犬尿天、

刹竿頭上一鎚子、三箇胡孫夜簸錢、洞山意作麼生
道、代、兎角龜毛眼裏哉、

法身ハ無形シテ法界ニ偏滿也、有ト看レバナシ、無ト
看レバ有ル物也、頌ハ悉皆ヨノツ子ニナキリ也、去テ
コソ兎角モナキリ也、龜毛モナキリ也、ナイ物ヲ眼裏
ニ裁ト云モナキリ也、畢竟有ルガナイ無イガ有也、是
ガ本心本性也、

(142) ○古德僧問、如何是本來心、德云、犀ハ因翫月紋角、

象被雷驚花入牙、答話意思如何、代、月(46才)裡
姪蛾不画肩、

是ワテツケセヌト云心也、眉ヲツククル□テヲツケタコ
トヨ、姪蛾ワ本來ヨ、本面呈ニ眉ヲツクラズ、本心本
性ニハ誰カ手ヲツクヘキゾ、手ヲツケルワ今時ヨ、犀
モ月ヲ弄ヤウトハ何ガ思ヘキゾ、紋モ月ニ依テ生ヘシ
トハ何ガ思ウヘキゾ、フツトシヤワセタルリ也、更ニ
工夫斗象ノ雷ニ依テ牙ハ花生ヘキトハ何ガ思ヘキゾ、
是モ工夫斗也、

(143) ○古徳僧問、如何是善知識眼、師云、十字街頭片瓦子、代、星隕霓即石、

是ハ光彩ノナキ用処也、路ノ辻ジニワレ瓦ノワレニ何ノ光ガアルベキゾ、大善知識ニ到テハ眼ニ一点モ光眼ガ在テコソ、去テコソ代モ星一石、是ハ易ノ言ナリ、星モ雲ニ在時コソ光ハアレ、雨一一如ニ落テ石トナツテハ光彩ワナシ(46ウ)、

(144) ○古徳僧問、万境未_レ侵時如何、徳云、有口似鼻孔、
為什麼如是、代、銅砂礮一油、

是ハソバヲモ不見口ヲモ開ヌ時節也、ソバ目ヲシ是非ヲ言レバ他ニ意ヲ移ス也、他ニ移サ子バ万境ニワ一点モヲカサレヌゾ、ソツトモソバ目ヲセバ油ヲコホレベキゾ、ヤガテ罪ニ落スヘキ也、

(145) ○古徳云、十五日已前泥牛鬪入海門、十五日已後木馬中弄蹄去、正当十五日為什麼不道、代、二祖腦後見_レ腮、
已前已後ニハ何レモ依テ理ヲツクル共正当ヲバ何ト

可_レ云ゾナ呈ニ腮ヲ見ハト云ハフレテハサテゾト云リ也、腦後ノ腮トハカマホウノ荒レタル者也、必ス一クセ在テエセ物也、触ヌガヨイト云リ也、

(146) ○経云、仏身充滿於法界、普現一切群生前、不_レ作_二身命_一作_レ麼生_カ道_シ、代、日炙風吹十二時(47オ)、
ト云ワ虚空ヲ云也、空中ハ日夜風モ吹、日モ炙風吹十二時ト云也、真仏ノ真ト云ハ空相ニシテ充滿スル物也、去テコソ普ク一切ノ前ニ現ト云也、空ト不_レ言シテ真空ヲヒタガス也、

(147) ○法尚応捨、何況非法、撈、非法取不可取、為_二什麼_一、
仏法尚_レ捨、代、吾法如金屎_屎法、
此ノ意ワ仏法ヲモ一度ワカナクソト見ルガ宗旨ノ極位也、金ワ重宝ナレ共金ナクソニナリテハ用ニ立タヌ也、仏法肝要ナレ共何ノ用ニモ立ヌ物ゾト一度可見也、又、作_レ聖解受群邪、是モ仏ハ聖也、知得テ後其解会ヲナサバ邪見ゾト仏モキラワルタゾ、何レモ此ガトガアル物也、ヨイト斗リ留バ悪キ也、

(148) ○円悟僧問、一大藏教那箇是頭、師云、如是我聞、

云、此是阿難底、如何是和尚底、師云、老僧用(47

ウ)得甚快、未審阿難与円悟有差別麼、代、心豈有別心、

ト云ワ本心ヲ能ク見ハ二ツナシ、文字ノ上ハ何ト云タモ代ルマジキ也、

慈雲開山金岡兼大和尚下語乾

明曆二年正月吉辰求之畢

当寺十一世 天林策叟置焉(48才)

(識語行間に朱書きにて「明和元申ノ冬十一月十五日ハ開祖二百五十年忌也、辱孫無外結制安居、末山配下不殘聚會二夜三日行法事、制中講法華全ク説聽終、明和四亥ノ年迄百十一年ニナル、十九世無考訂」とあり)

『慈雲開山金岡和尚代語』翻刻(上)(龍谷)